

StorageTek Host Software Component (MVS 対応版)

リファレンスサマリー

バージョン 6.2



パート番号 : E28893-01
2012 年 2 月
リビジョン 02

このドキュメントに関するコメントは STP_FEEDBACK_US@ORACLE.COM に送信してください。

Host Software Component (HSC) リファレンスサマリー
E28893-01

Oracle は、このマニュアルを改善するためのコメントや提案を歓迎いたします。STP_FEEDBACK_US@ORACLE.COM にご連絡ください。タイトル、パート番号、発行日、およびリビジョンを含めてください。

Copyright ©1987, 2012, Oracle and / or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle は Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

ドキュメントの有効性

EC 番号	日付	ドキュメント キット番号	種別	有効性
132519	2007 年 3 月	---	リビジョン A	このマニュアルは MVS 対応版 <i>Host Software Component(HSC)</i> 、 バージョン 6.2 に適用されます。
---	2008 年 4 月	---	リビジョン B	
---	2008 年 9 月	---	リビジョン C	
---	2009 年 5 月	---	リビジョン D	
---	2010 年 6 月	---	リビジョン DA	
---	2010 年 9 月	---	リビジョン DB	
---	2011 年 9 月	---	リビジョン 01	
---	2012 年 2 月	---	リビジョン 02	

目次

はじめに	vii
Oracle Support へのアクセス	vii
構文規則	1
構文フローダイアグラム	1
コマンドの指定	1
変数	1
区切り文字	1
フロー線	2
必須選択	2
オプション選択	3
デフォルト	3
繰り返し記号	3
構文の継続 (断片)	4
ライブラリの識別	5
CAPid の指定方法	6
CAPid 形式	7
範囲とリスト	9
制御文の構文規則	12
LIBGEN マクロの構文	13
SLIACS マクロ	14
SLIALIST マクロ	14
SLIDLIST マクロ	14
SLIDRIVS マクロ	14
SLIENDGN マクロ	14
SLILIBRY マクロ	15
SLILSM マクロ	16
SLIRCVRY マクロ	16
SLISTATN マクロ	17
ユーティリティーの構文	19
ACTIVITIES ユーティリティー	20
AUDIt ユーティリティー	20
BACKup ユーティリティー	21
データベースデコンパイル (LIBGEN) ユーティリティー	21
ディレクトリ再構築 (DIRBLD) ユーティリティー	21

EJECT ユーティリティ	22
INITIALIZE (カートリッジ初期設定) ユーティリティ	23
OFFLOAD ユーティリティ	23
MERGECDs ユーティリティ	23
MOVE ユーティリティ	24
再構成ユーティリティ	24
再配置ユーティリティ	24
RESTore ユーティリティ	24
SCRATCH ユーティリティ	25
SLUCONDB ユーティリティ	25
スクラッチ再分配 (SCREdist) ユーティリティ	26
SET ユーティリティ	27
UNSCRATCH ユーティリティ	28
UNSELECT ユーティリティ	28
ボリュームレポート (VOLRpt) ユーティリティ	29

制御文の構文	31
制御データセット定義 (CDSDEF) 制御文	32
EXECParm 制御文	32
ジャーナル定義 (JRNDf) 制御文	32
LMUPATH 制御文	32
LMUPDEF コマンドおよび制御文	33
OPTION 制御文	33
再構成定義 (RECDEF) 制御文	33
スクラッチサブプール定義 (SCRPFDEF) コマンドおよび制御文	33
スクラッチサブプール (SCRPOOL) 制御文	34
ユーザー出口コマンドおよび制御文	34
ボリューム属性 (VOLATTR) 制御文	35
ボリューム属性定義 (VOLDEF) コマンドおよび制御文	36

HSC オペレータコマンドの構文	37
割り振り (ALLOC) コマンドおよび制御文	37
CAP 優先 (CAPPref) コマンドおよび制御文	37
CDs 使用可 / 使用不可コマンド	38
CLean コマンド	38
通信パス (COMMPath) コマンドおよび制御文	39
DISMount コマンド	39
DISPLAY コマンド	40
DRAin CAP コマンド	48
Eject コマンド	49
ENter コマンド	50
Journal コマンド	50
MODify コマンド	51
MONITOR コマンド	51
Mount コマンド	52
Mount/Dismount オプション (MNTD) コマンドおよび制御文	53

MOVE コマンド	53
OPTion コマンドおよび制御文	54
RECover Host コマンド	54
RELease CAP コマンド	54
SCRAtch コマンド	55
SEnTer コマンド	55
SRVlev コマンド	55
監視停止 (STOPMN) コマンド	55
SWitch コマンド	55
TRace コマンド	56
TRACELKP コマンド	56
UNSCRAtch コマンド	56
ユーザー出口 (UEXIT) コマンドおよび制御文	57
Vary Station コマンド	57
View コマンド	58
Warn コマンド	59
HSC 診断コマンドの構文	61
Llst コマンド	62
TRace コマンド	62

はじめに

このサマリーには、Host Software Component (MVS 対応版) の Release 6.2.0 に関連した、頻繁に使用される構文の情報が記載されています。

ここで提供される資料は記憶の助けとして使用してください。プログラマーレベルで Host Software Component を操作する、経験のあるユーザーを対象としています。このことを念頭に置いて、説明文は最小限にしています。

このリファレンスサマリーには次の情報が記載されています。

- 構文規則
- LIBGEN マクロの構文
- 制御文の構文
- ユーティリティーの構文
- オペレータコマンドの構文
- 診断コマンドの構文

Oracle Support へのアクセス

Oracle のお客様は、My Oracle Support を通して電子サポートにアクセスできます。詳細については、<http://www.oracle.com/support/contact.html> にアクセスするか、または聴覚障害をお持ちの場合は <http://www.oracle.com/accessibility/support.html> にアクセスしてください。

構文規則

構文フローダイアグラム

構文は、構文フロー図を使って示します。この図には、次の要素が含まれます。

- 構文 - 図自体。
- 項目 - 図内の各要素。項目には、キーワード、変数、区切り記号、演算子、構文の部分参照、分離記号があります。
- グループ - 項目またはそのほかのグループの集合。

次の項では、構文フロー図の特徴について説明し、一般的な例も示します。

コマンドの指定

コマンドは、コマンド名、キーワードパラメータ、および定位置パラメーターから構成されます。コマンド名は、コマンド実行を開始します。キーワードパラメータは、キーワードとその関連値を含むオペランドであり、定位置パラメータは、キーワードでなくコマンド文字列内の位置で識別されるオペランドです。

- キーワードパラメータは順不同に指定できる。HSC では、1つのキーワードを繰り返し指定できる (このような指定方法が許容されている)。この場合、キーワードには、コマンド内で最後に指定されたものに関連する値が割り当てられる。
- 定位置パラメータは、構文図にあるとおりの順序で入力しなければならない。
- 大文字は、コマンド名、キーワード、または定位置パラメータの最小省略形を示します。

変数

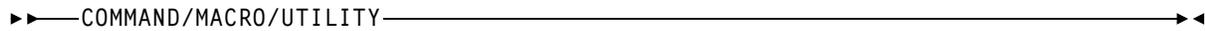
変数はイタリックで示されます。

区切り文字

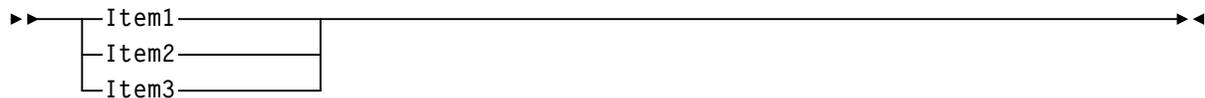
カンマ (,)、セミコロン (;)、またはそのほかの区切り文字が構文フロー図の要素とともに示された場合、それは文またはコマンドの一部として入力する必要があります。

フロー線

構文フロー図は、横線と縦線、およびコマンド、制御文、マクロ、またはユーティリティのテキストからなります。

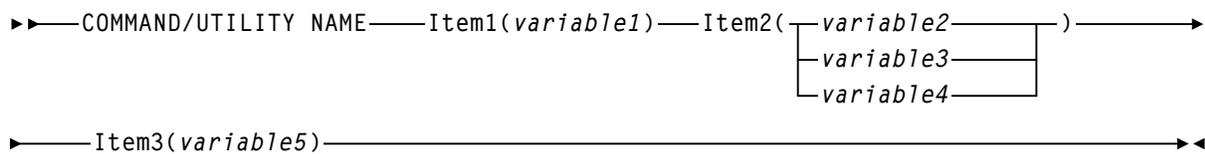


または



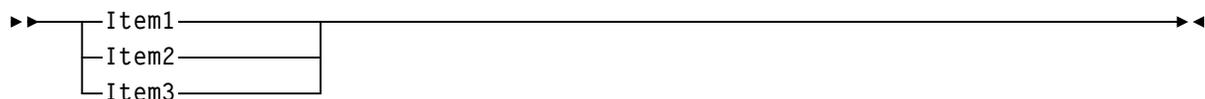
ダイアグラムは、左から右、上から下へ読みます。矢印は流れとその方向を示します。

- 文の開始は ▶▶
- 文の終了は ▶◀
- 次の行へ続くダイアグラムの開始は ▶
- フラグメントは | で開始/終了



必須選択

反復矢印のない分岐線は、**1つ**を選択する必要があることを示します。項目の1つが構文フロー図の基本線上にある場合は、必須選択となります。



オプション選択

最初の項目が基本線の下にある場合は任意選択となります。



デフォルト

デフォルト値とパラメータは、構文フロー図の線の上に示されます。次の例ではコマンドで値が指定されない場合、デフォルト値が HSC によって使用されます。

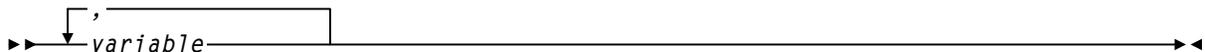


一部のキーワードパラメータには、スタックからの値を選択できます。スタックにデフォルト値がある場合、キーワードおよび選択値は基本線の下に位置し、それが任意選択であることが示されます。そしてデフォルト値はキーワード行の上に現れます。次の例ではコマンドにキーワードが指定されない場合、キーワード(省略時値)が HSC によって使用されます。



繰り返し記号

繰り返し記号は、複数の選択が可能であること、または1つの選択を2回以上実行できることを示しています。この例の反復記号の場合、反復分離記号としてカンマが必要です。



構文の継続 (断片)

断片参照によって、構文の一部 (断片) を元の構文フロー図より詳しく参照できます。

▶▶—COMMAND/UTILITY NAME———| Fragment Reference |—————▶◀

断片:

|—Item1(—*variable1*———,———*variable3*———)|—————▶
|———*variable2*———| |———*variable4*———|

▶—Item2(—*variable5*———,———*variable7*———)|—————|
|———*variable6*———| |———*variable8*———|

ライブラリの識別

各 ACS、LSM、CAP には、LIBGEN 実行時に固有の識別番号が割り当てられます。HSC コマンドおよびユーティリティーで特定の ACSid、LSMid、または CAPid を識別する際は、この番号を使用してください。

- ACSid (*acs-id*) は、00 から FF までの 16 進値で、LMU を識別します。

acs-id は LIBGEN 実行時に SLIALIST マクロを定義した結果出されたものです。SLIALIST マクロについては、『HSC 構成ガイド』の「LIBGEN マクロ」を参照してください。このマクロに記載された最初の ACS は 00 という 16 進識別子を獲得し、記載された 2 番目の ACS は 01 の 16 進識別子を獲得し、以後すべての ACS が識別されるまで続行されます。

- LSM 番号 (*ll*) は 00 から 17 までの 16 進値です。これは、1 つの LSM を同じ LMU に接続されているほかのすべての LSM と区別します。

LSM 番号は SLIACS マクロの LSM パラメータを定義した結果出されたものです。SLIACS マクロについては、『HSC 構成ガイド』を参照してください。ACS 用に記載された最初の LSM は 00 の 16 進値を獲得し、ACS 用に記載された 2 番目の LSM は 01 を獲得し、以降すべての ACS が識別されるまで続行されます。

- LSMid (*lsm-id*) は、ACSid と LSM 番号をコロン (:) で区切ったもので構成されます。これは、1 つの LSM をライブラリにあるほかのすべての LSM と区別します。
- CAP 番号は、SL3000 ライブラリを除くすべての既存のライブラリについての、00 から 02 までの 16 進値です。SL3000 の CAP 番号は、00 から 0B までの 16 進値です。CAP 番号によって、複数の CAP がある LSM で特定の CAP が識別されます。
- CAPid (*cap-id*) は、LSMid と CAP 番号をコロンで区切ったもので構成される 16 進値です。詳細については、[CAPid の指定方法](#) on page 6 を参照してください。

一部の HSC コマンドおよびユーティリティーは必須または任意でユーザーがホスト識別子または VOLSER を指定できるようにします。

- 指定されたホストの *host-id* は、LIBGEN の SLILIBRY マクロの HOSTID パラメータに指定された識別子です。HOSTID パラメータは、JES2 および JES3 いずれの場合も SMF システム識別子です。HOSTID に使用できる文字は、A-Z、0-9、#、\$、および @ です。
- VOLSER (*volser*) は 1-6 文字で構成されるボリュームシリアル番号を識別します。有効文字は、A-Z、0-9、# (シャープ記号)、\$、¥ (円記号)、および任意選択の後書きブランクです。先行ブランクは使用できません。

CAPid の指定方法

CAPid はライブラリ内の特定の CAP を指定します。各 CAP は、CAP が接続している LSM の LSMid と、その LSM 内で CAP の区別に使用される CAP 番号で識別されます。

CAP 構成は、LSM タイプによって異なります。次の構成が可能です。

LSM (モデル 4410) および PowderHorn LSM (モデル 9310)

標準の 21 セルの CAP または拡張 CAP のいずれかで構成できます。拡張 CAP は、40 セルマガジンスไตล์ CAP が 2 つと、1 セル優先 CAP (PCAP) を含みます。40 セルの CAP は独立して機能します。

WolfCreek LSM (モデル 9360-050、9360-075、および 9360-100)

20 セルのマガジンスไตล์ CAP および PCAP を含む WolfCreek CAP で構成します。WolfCreek オプション CAP と呼ばれる 30 セルのマガジンスไตล์ CAP を WolfCreek CAP に追加できます。

TimberWolf LSM (モデル 9740)

14 セルの永続ラックまたは 10 セルの取り外し可能マガジンのいずれかで構成します。

StreamLine ライブラリ (モデル SL3000)

このライブラリは、各 CAP で 13 セルの取り外し可能マガジン 2 個で構成します。このライブラリは、最大 12 の CAP (00 - 0B) を含むことができます。

StreamLine ライブラリ (モデル SL8500)

このライブラリは、3 セルおよび 13 セルの取り外し可能マガジンと構成できます。オプションで 39 セル CAP を追加できます。

CAPid 形式

CAPid の指定に使用できる形式は 2 つあります。

- *AA:LL*。AA は ACSid、LL は LSM 番号です。この形式は、*lsm-id* と呼ばれます。
- *AA:LL:CC*。AA:LL は LSMid、:CC は CAP 番号です。この形式は、*cap-id* と呼ばれます。



注意：システムは新しい CAPid 形式におけるコロンをコマンドの終わりとして処理するので、MVS コマンド区切り文字としてコロンを使用しないでください。HSC コマンドでは、コロンに続く情報は、一切処理されません。

使用する形式は、CAP ハードウェアと指定されているコマンドによって決まります。

- *AA:LL* 形式は、次の場合に指定できます。
 - 標準 CAP を指定する
 - HSC が CAP 優先に基づいて CAP を選択できるようにする
- *AA:LL:CC* 形式は、CAPid を受け入れるすべてのコマンドで、すべての CAP ハードウェアに指定できます。これが優先形式です。有効な CAP 番号は次のとおりです。

00 は、次のいずれかを示します。

- 21 セルの 4410 または 9310 標準 CAP
- 右側の 40 セルの 4410 または 9310 拡張 CAP
- 20 セルの 9360 WolfCreek CAP
- 14 セル または 10 セルの取り外し可能マガジン 9740 TimberWolf CAP
- 13 セルの取り外し可能マガジン 18 個で構成される、左側の SL3000 AEM CAP
- 左側の 39 セルの SL8500 ライブラリ CAP

01 次のいずれかを示します。

- 左側の 40 セルの 4410 または 9310 拡張 CAP
- 30 セルの 9360 WolfCreek オプション CAP
- 13 セルの取り外し可能マガジン 2 個で構成されるオプション SL3000 CEM CAP
- 右側の 39 セルの オプション SL8500 ライブラリ CAP

02 は、次のいずれかを示します。

- 4410 または 9310 拡張 CAP または 9360 WolfCreek CAP の PCAP。
- 13 セルの取り外し可能マガジン 2 個で構成されるオプション SL3000 CEM CAP。

03、04、05 は、次を示します。

- それぞれ 13 セルの取り外し可能マガジン 2 個で構成されるオプション SL3000 CEM/DEM CAP。

06 は、次を示します。

- 13セルの取り外し可能マガジン 2 個で構成される唯一の必須 SL3000 BDM CAP。

07、08、09、0A は、次を示します。

- それぞれ 13セルの取り外し可能マガジン 2 個で構成されるオプション SL3000 CEM CAP。

0B は、次を示します。

- 13セルの取り外し可能マガジン 18 個で構成される、右側の SL3000 AEM CAP



注：

- SL3000 ライブラリ CAP が存在しない場合、HSC はこれらを「インストールされていない」とレポートします。これにより、CAP アドレスは変更されず、新しい CAP が追加されます。
- CAPid の指定についての追加情報は、個々のコマンドの説明を参照してください。
- SL3000 ライブラリと SL8500 ライブラリには PCAP は含まれません。

範囲とリスト

HSC コマンドとユーティリティーでは、通常、要素の範囲とリストを指定することができます。

1. 範囲を表す場合は、同じ長さでデータタイプを有する 2 つの要素 (両要素も範囲内に含まれる) をダッシュで結んで表します。最初の要素は、絶対に 2 番目の要素より小さくしなければ **なりません**。

- 16 進数の範囲は、2 つの 16 進数で表します (例: 0A2-0AD または 000-0FC)。
- 10 進法の範囲は、10 進の数字の組み合わせで構成されます (たとえば、1-9、または 010-094)。先行 0 は不要です。
- 数値による VOLSER 範囲 (*vol-range*) は、1 - 6 桁の 10 進数を伴う 2 つの VOLSER 要素で構成されます (例: ABC012-ABC025、または X123CB-X277CB)。10 進数の部分を増分域と呼びます。次の制限が適用されます。
 - 増分部分の文字位置は 2 つの範囲要素で一致していなければなりません。
 - 増分されない部分の文字は、両要素で一致していなければなりません。
 - 範囲要素の複数箇所を増分することはできません。最初の要素が 111AAA の場合、2 番目の要素で 112AAB と指定することはできません。
 - VOLSER 範囲で 10 進数が 2 箇所以上使用されている場合は、あらゆる箇所が増分域として有効です。例:

A00B00 指定可能な最大範囲は A00B00 - A99B99

A0B0CC 指定可能な最大範囲は A0B0CC - A9B9C

000XXX 指定可能な最大範囲は 000XXX - 999XXX



注: ほとんどのオペレータコマンドの VOLSER 範囲は、100 項目に限られます。これよりも大きな範囲が入力されても、その範囲内の最初の 100 個の VOLSER にしかコマンドは作用しません。HSC ユーティリティーを使用すれば、100 項目を超える範囲を処理できます。

- アルファベットによる VOLSER 範囲 (*vol-range*) は、増分する 1 - 6 文字のアルファベットを伴う 2 つの VOLSER 要素で構成されます (例: AAA-000ZZZ または 9AAA55-9ZZZ55)。この部分を増分域と呼びます。次の制限が適用されます。
 - 増分部分の文字位置は 2 つの範囲要素で一致していなければなりません。

- 増分されない部分の文字は、両要素で一致していなければなりません。
- 範囲要素の複数箇所を増分することはできません。最初の要素が 111AAA の場合、2 番目の要素で 112AAB と指定することはできません。
- **VOLSER** 範囲のアルファベット部分は、**A - Z** と定義されています。複数文字のシーケンスを増分する場合、個々の文字が **Z** まで増分します。たとえば、**ACZ** は **AAA-AMM** 範囲内にあります。次の例を参照してください。

<u>A00A0-A99A0</u>	VOLSER は A00A0 - A09A0 まで増分し、そのあと、 A10A0 - A99A0 まで増分します。
<u>9AA9A-9ZZ9A</u>	VOLSER は 9AA9A - 9AZ9A まで増分し、そのあと 9BA9A - 9ZZ9A まで増分します。
<u>111AAA-111ZZZ</u>	VOLSER 111AAA から 111AAZ まで増え、次に 111ABA から 111ZZZ まで増えます。
<u>999AM8-999CM8</u>	VOLSER は 999AM8 - 999AZ8 まで増分し、そのあと 999BA8 - 999CM8 まで増分します。
<u>A3BZZ9- A3CDE9</u>	VOLSER は A3BZZ9 - A3CAA9 まで増分し、そのあと A3CAB9 - A3CDE9 まで増分します。
<u>AAAAAA- AAACCC</u>	VOLSER は AAAAAA - AAAAAZ まで増分し、そのあと AAAABA - AAACCC まで増分します。
<u>CCCNNN- DDDNNN</u>	VOLSER は CCCNNN - CCCNNZ まで増分し、そのあと CCCNOA - DDDNNN まで増分します。*

* **注意**：これは非常に広い範囲になります。

アルファベットによる **VOLSER** 範囲のボリューム数は、**VOLSER** 範囲で使用する増分部分の要素数によって決定されます。各文字位置での **A - Z** 範囲のボリューム数は、増分対象のポジション数の 26 乗になります。

A-Z	26^1	26
AA-ZZ	26^2	676
AAA-ZZZ	26^3	17,576
AAAA-ZZZZ	26^4	456,976
AAAAA-ZZZZZ	26^5	11,881,376
AAAAAA-ZZZZZZ	26^6	308,915,776



注：ほとんどのオペレータコマンドの場合、VOLSER 範囲は 100 項目に限られます。大きい範囲を入力しても、最初の 100 の VOLSER しか作用しません。HSC ユーティリティーを使用すれば、100 項目を超える範囲を処理できます。

2. リストは、1 つまたは複数の要素で構成されます。複数の要素からなる場合は、カンマまたはブランクで区切り、リスト全体をカッコで囲む**必要があります**。
 - HSC オペレータコマンドでは、要素は単一の要素または範囲のどちらでもかまいません。有効なリスト項目の説明については個々のコマンドを参照してください。
 - 通常、HSC ユーティリティーでは、リストに範囲を指定することはできません。VOLSER のリスト (*vol-list*) は例外で、範囲を指定できます。

VOLATTR 制御文の場合は、VOLSER のリストを識別するのに、ワイルドカード文字 (%、?、または *) を使用できます。

制御文の構文規則

各ユーティリティープログラムの制御文は、コマンド(ユーティリティー機能を示す)と、それに続くパラメータ(ある場合)からなる80文字のカードイメージレコードで構成されます。通常、制御文には、次の構文表記法が使用されます。

- 有効な制御文情報領域は、列1-列72のみです。列73-80は無視されます。
- パラメータは、1つ以上のブランクまたはカンマによって区切られます。
- 値は、等号(=)によって、または値をカッコでくくり、それをパラメータに連結することにより、パラメータと関連付けられます。
- 実際の制御文では、大文字/小文字は区別されません。
- 制御文には、列1の中でアスタリスク(*)で示される注釈が付いていることがあります。

定義データセット(VOLATTR、UNITATTR、およびTAPEREQ)の場合、注釈は新しい形式(*...*)でなければなりません。アスタリスク(*)の注釈は使用できません。定義データセットの場合、最初の行には/*...*/という注釈は必要ありません。

- 文が続かない場合、制御文は終了します。注釈をネストすることはできません。また、2つの注釈スタイル(*および/*)を混合することはできません。
- 80文字のカードイメージレコードは、従来の連結規則を使用します。
 - パラメータまたはパラメータ値のあとのスペースとダッシュ(-)は、その行の最後の非空白文字と、その次の非空白レコードの最初の非空白文字との間に空白を挿入しなければならないことを示します。
 - 正符号(+)は、続きの制御情報を、正符号の前の文字の直後に連結することを示します。続きのデータは、次の非ブランクレコードの列2から始まります。

注: 継続は、新しいキーワードまたは値が自然終了した後にのみ使用できます。いくつかの例を以下に示します。

次の例は、継続が正しく使用されています。

```
SCRPOOL NAME=STD36,RANGE+  
(AAA000-AAA999,ZZZ000-ZZZ999)
```

```
SCRPOOL NAME=STD36,RANGE(AAA000-AAA999,-  
ZZZ000-ZZZ999)
```

次の例は、連結が誤って使用されています。

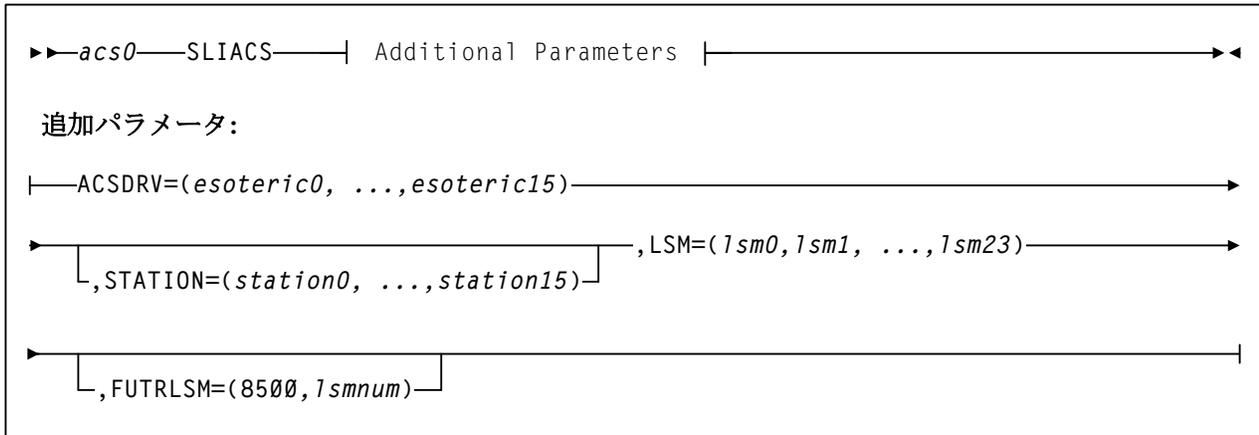
```
SCRPOOL NAME=STD36,RANGE(AAA000-AAA999,ZZZ+  
000-ZZZ999)
```

- 制御文の最大長は、32,767文字です。
- コマンドの最大長(コマンドとして使用されるか、またはPARMLIBにおいて使用される)は、126文字です。

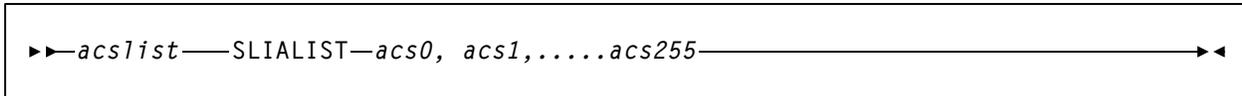
LIBGEN マクロの構文

この項には、LIBGEN マクロの構文がアルファベット順に記載されています。マクロ、およびマクロを指定するときに必要な順序の詳細については、『*HSC 構成ガイド*』を参照してください。

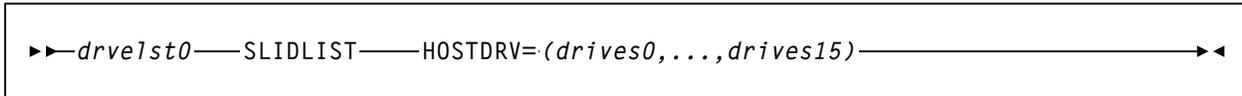
SLIACS マクロ



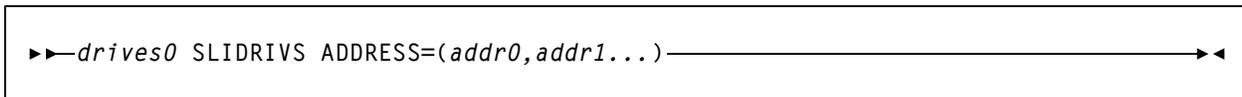
SLIALIST マクロ



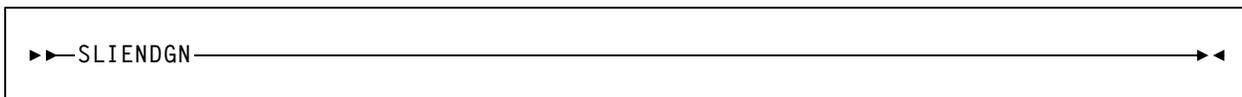
SLIDLIST マクロ



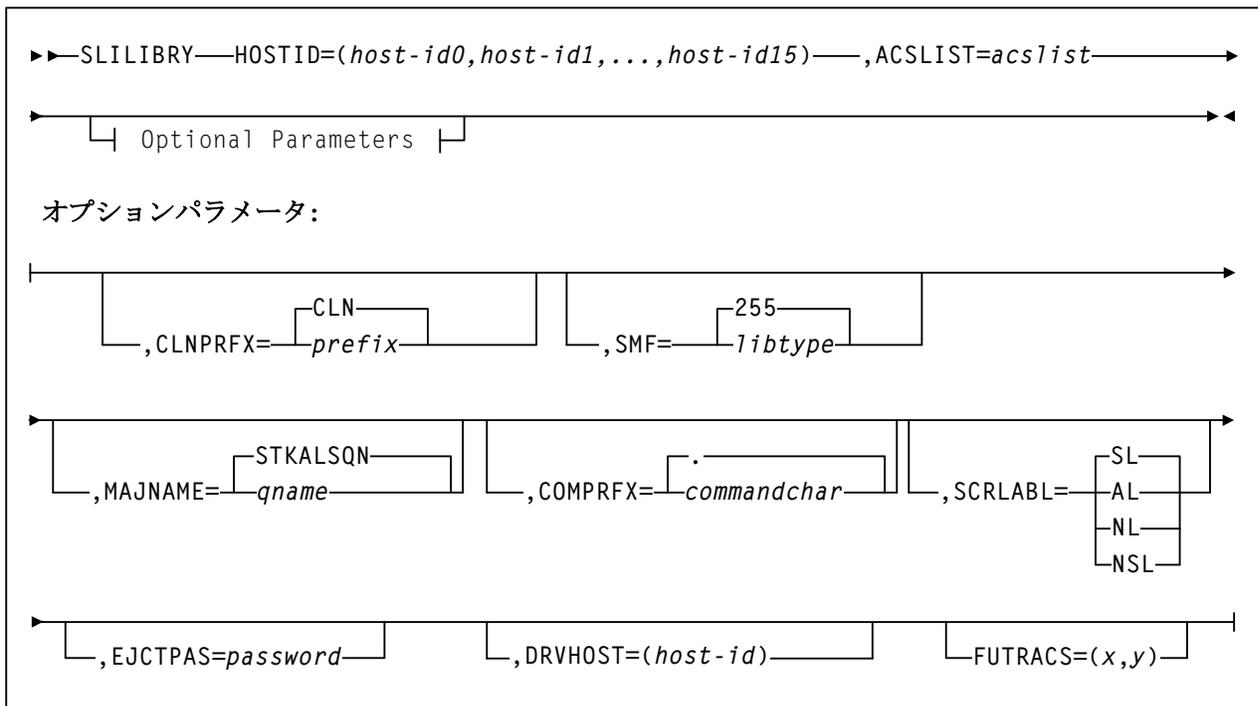
SLIDRIVS マクロ



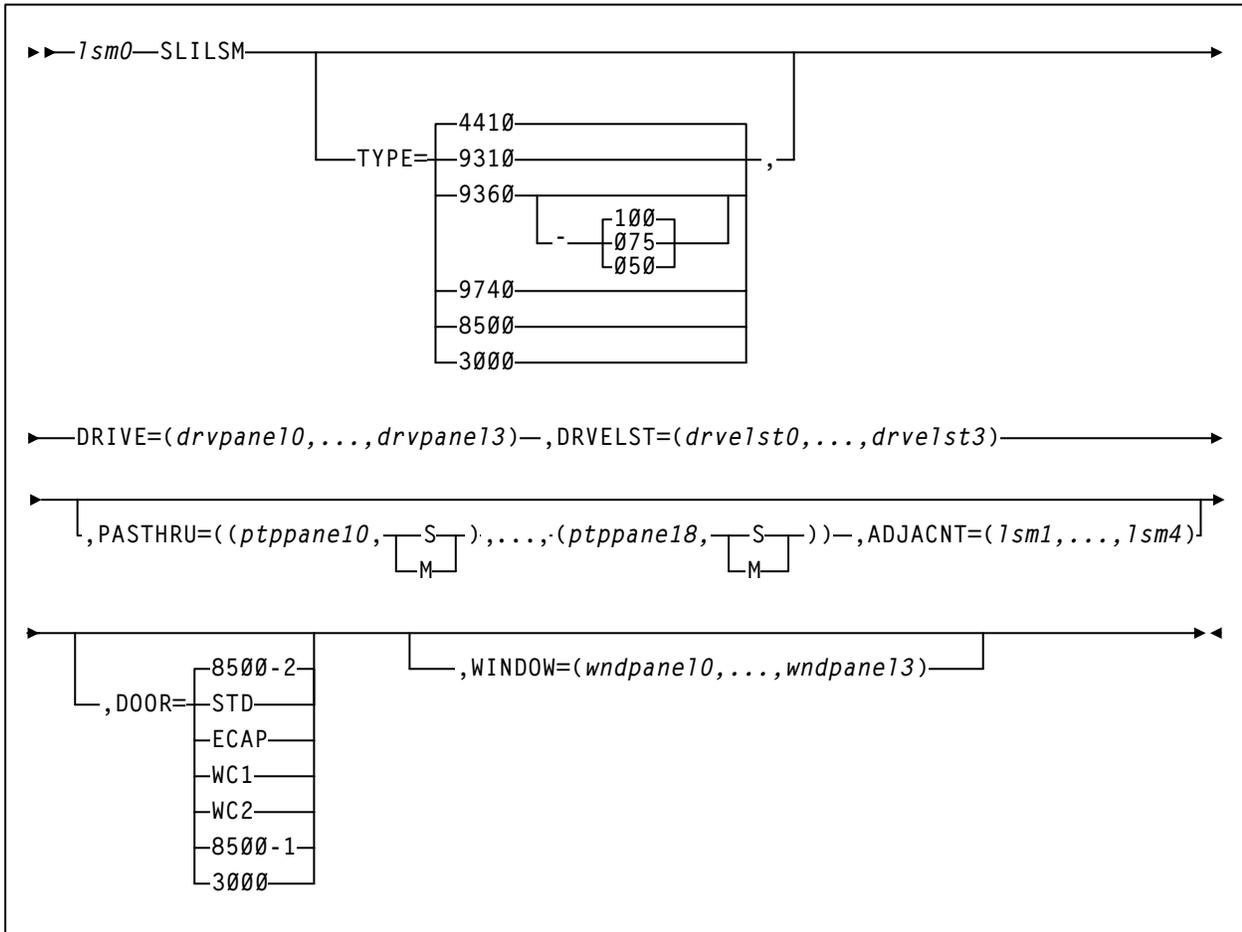
SLIENDGN マクロ



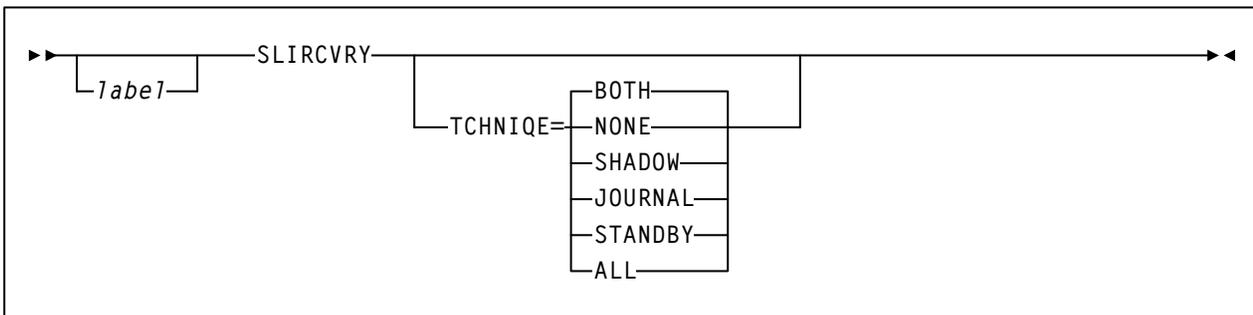
SLILIBRY マクロ



SLILSM マクロ



SLIRCVRY マクロ



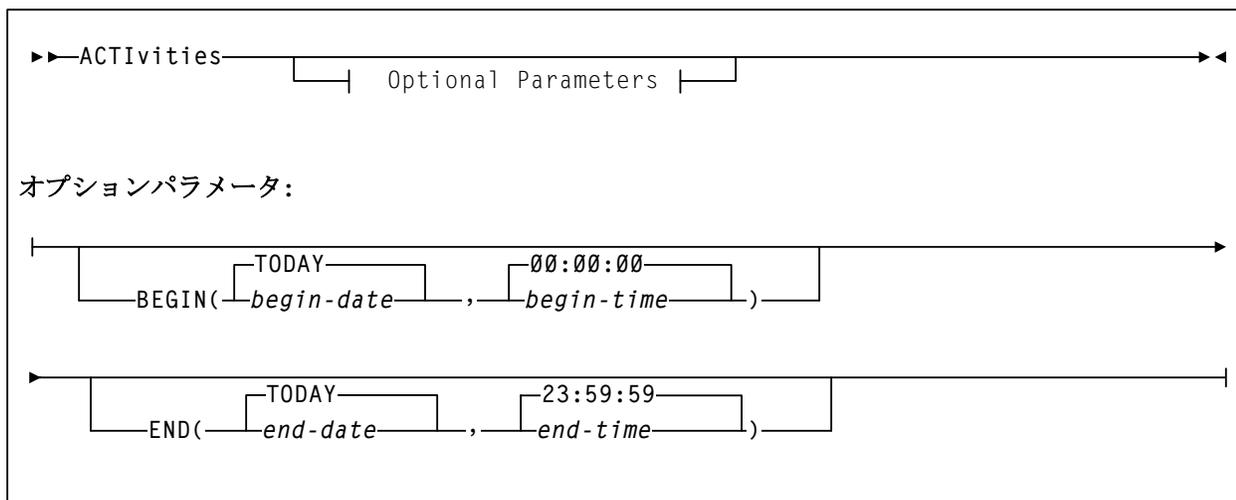
SLISTATN マクロ

▶▶ *station0* — SLISTATN ADDRESS=(*addr0*, ..., *addr15*) —▶▶

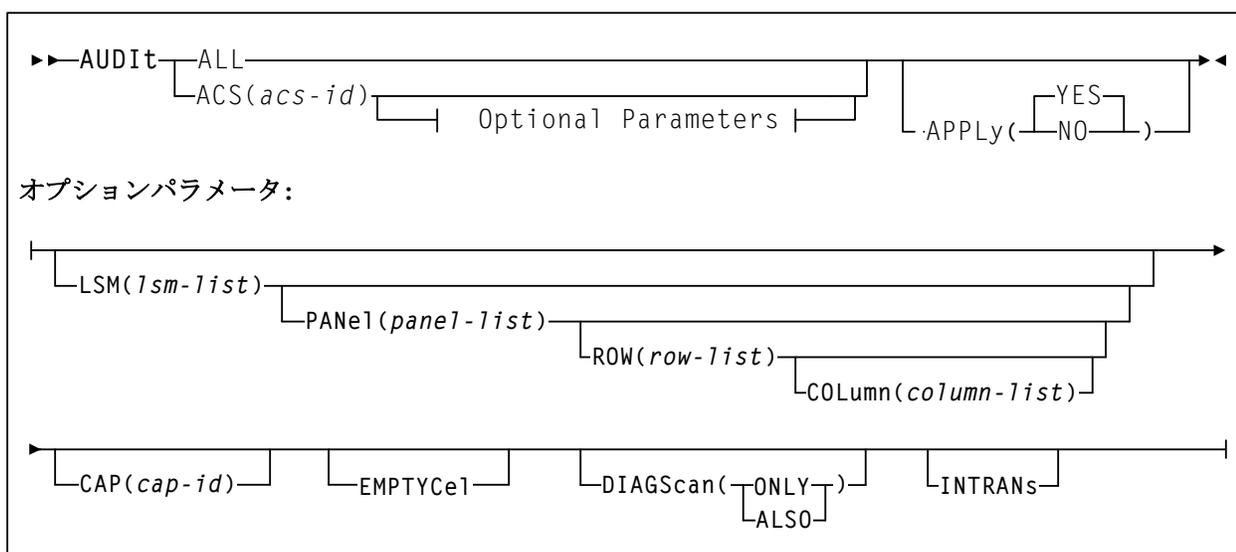
ユーティリティーの構文

この項には、ライブラリユーティリティーの構文が記載されています。ユーティリティーの詳細については、『*HSC システムプログラマーズガイド*』を参照してください。

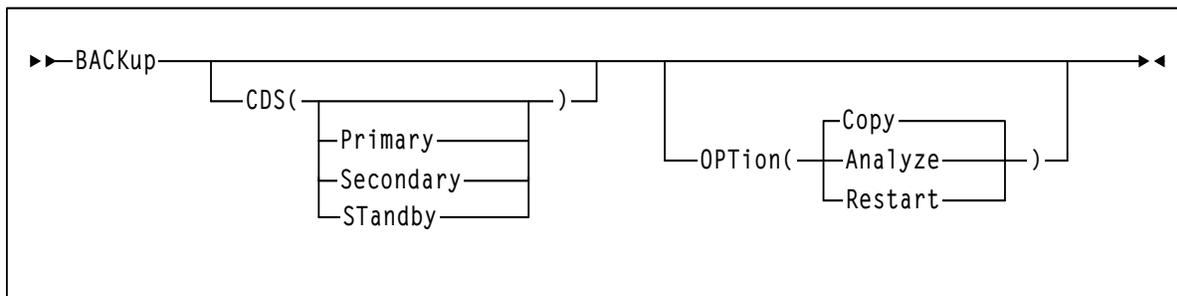
ACTIVITIES ユーティリティー



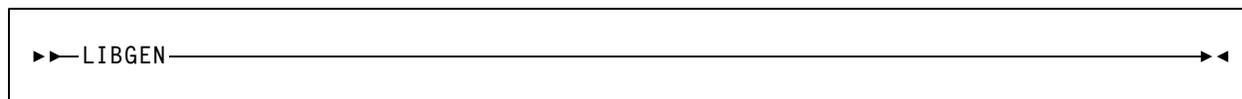
AUDIT ユーティリティー



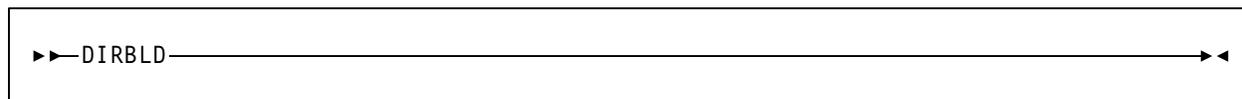
BACKup ユーティリティ



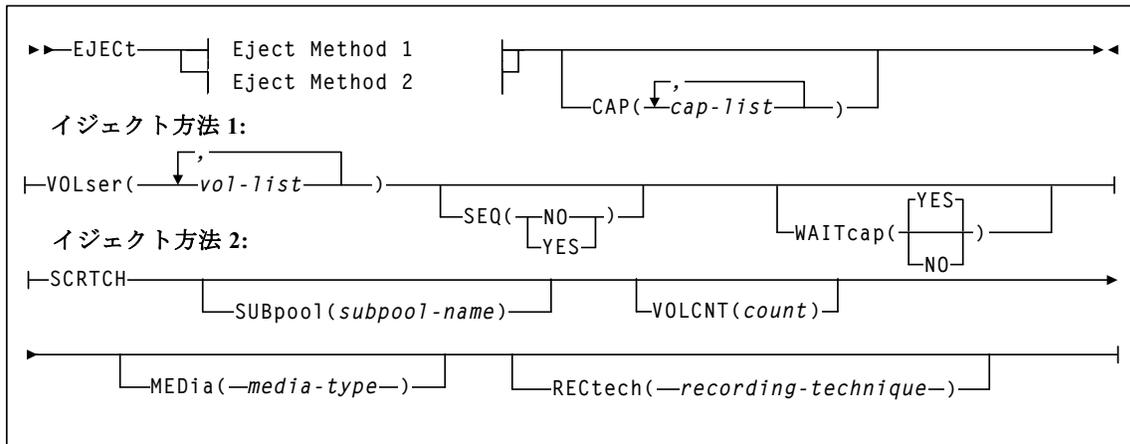
データベースデコンパイル (LIBGEN) ユーティリティ



ディレクトリ再構築 (DIRBLD) ユーティリティ



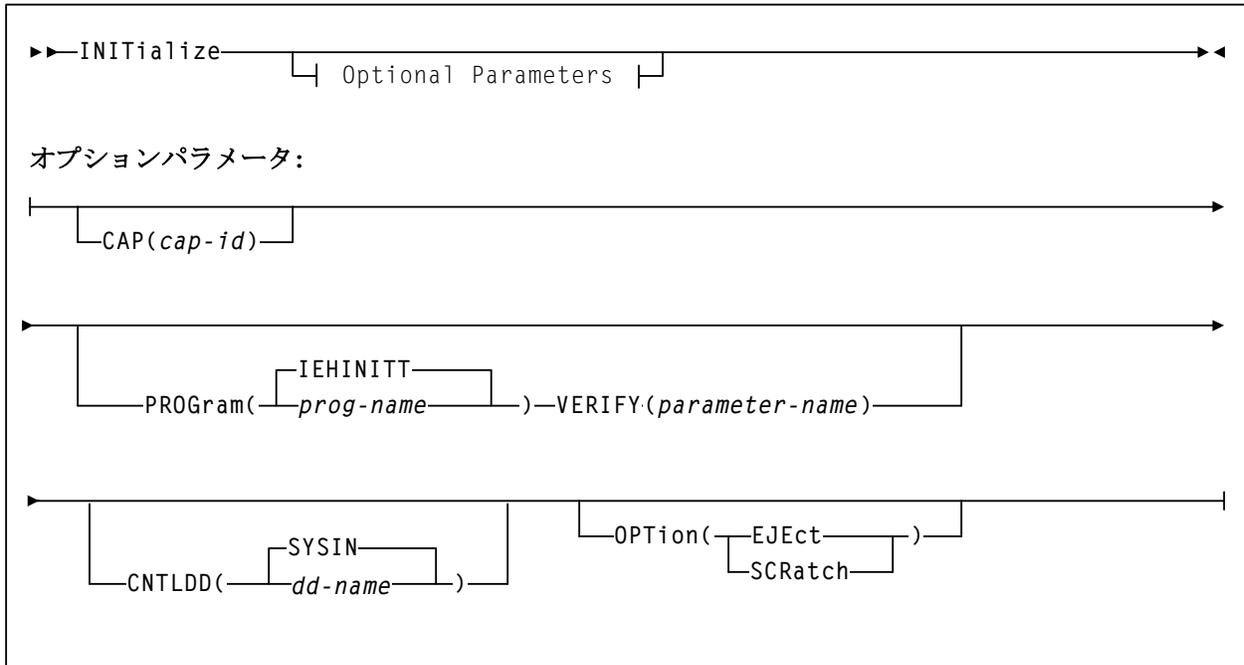
EJECT ユーティリティー



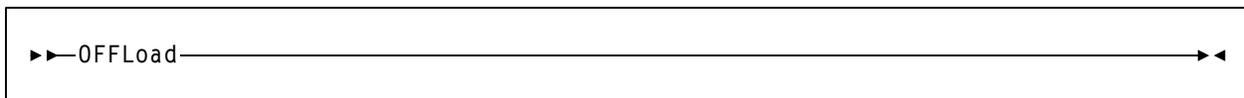
メディアタイプ	記録方式
標準	18track、36track、36Atrack、36Btrack、36Ctrack
ECART	
ZCART	
DD3、DD3A、DD3B、DD3C	HELical、DD3
STK1、STK1R	STK1R、STK1R34、STK1R35、STK1RA、STK1RA34、STK1RA35、STK1RB、STK1RB34、STK1RB35、STK1RAB、STK1RAB4、STK1RAB5、STK1RC、STK1RC34、STK1RC35、STK1RD、STK1RDE、STK1RDN、STK1RD34、STK1RD35、STK1RDE4、STK1RDE5
STK2、STK2P	STK2P、STK2P34、STK2P35、STK2PA、STK2PA34、STK2PA35、STK2PB、STK2PB34、STK2PB35
LTO-10G、LTO-35G、LTO-50G、LTO-100G、LTO-200G、LTO-400G、LTO-400W、LTO-800G、LTO-800W、LTO-1.5T、LTO-1.5W	*
SDLT、SDLT-2、SDLT-S1、SDLT-S2、SDLT-S3、SDLT-S4、SDLT-4	*
T10000T1、T10000TS、T10000T2、T10000TT	T10K、T10KN、T10KE、T10KA、T10KAN、T1A34、T1A35、T10KAE、T1AE34、T1AE35、T10KB、T10KBN、T1B34、T1B35、T10KBE、T1BE34、T1BE35、T10KC、T10KCE、T10KCN、T1C34、T1C35、T1CE34、T1CE35

* 対応する記録方式がありません。

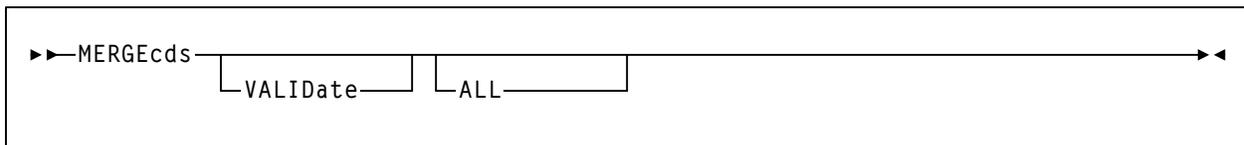
INITIALIZE (カートリッジ初期設定) ユーティリティー



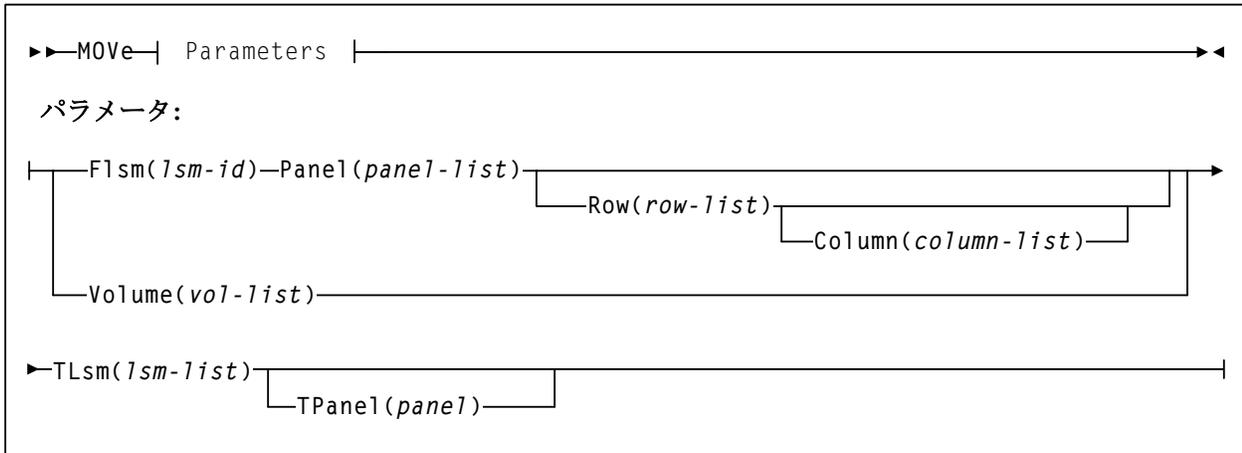
OFFLOAD ユーティリティー



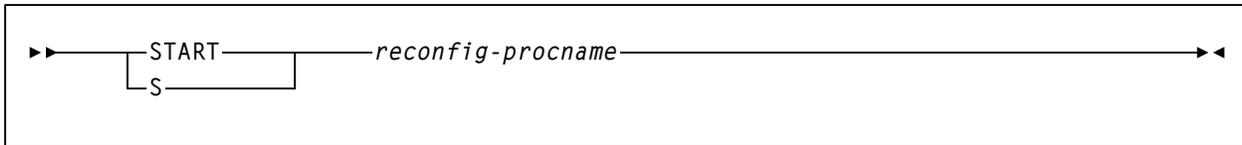
MERGECDs ユーティリティー



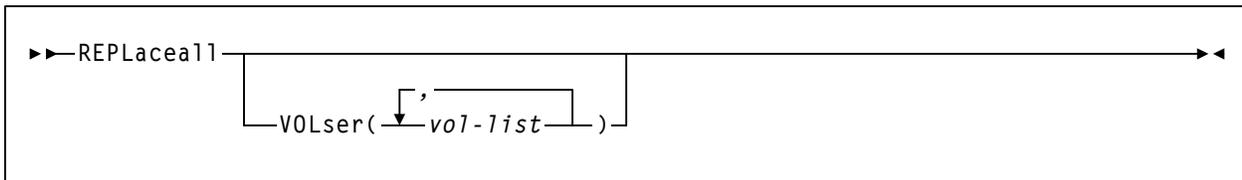
MOVE ユーティリティー



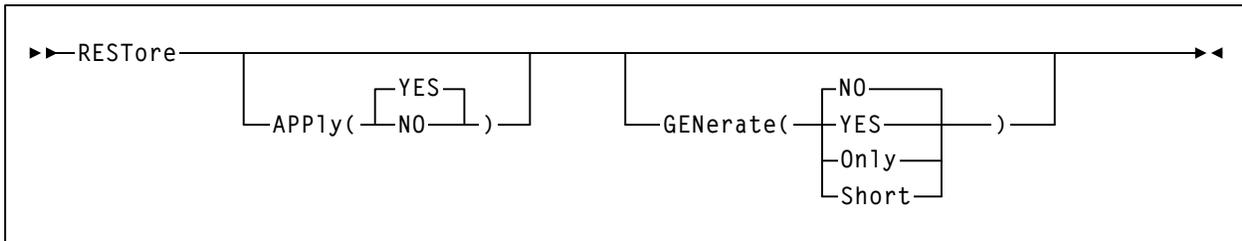
再構成ユーティリティー



再配置ユーティリティー



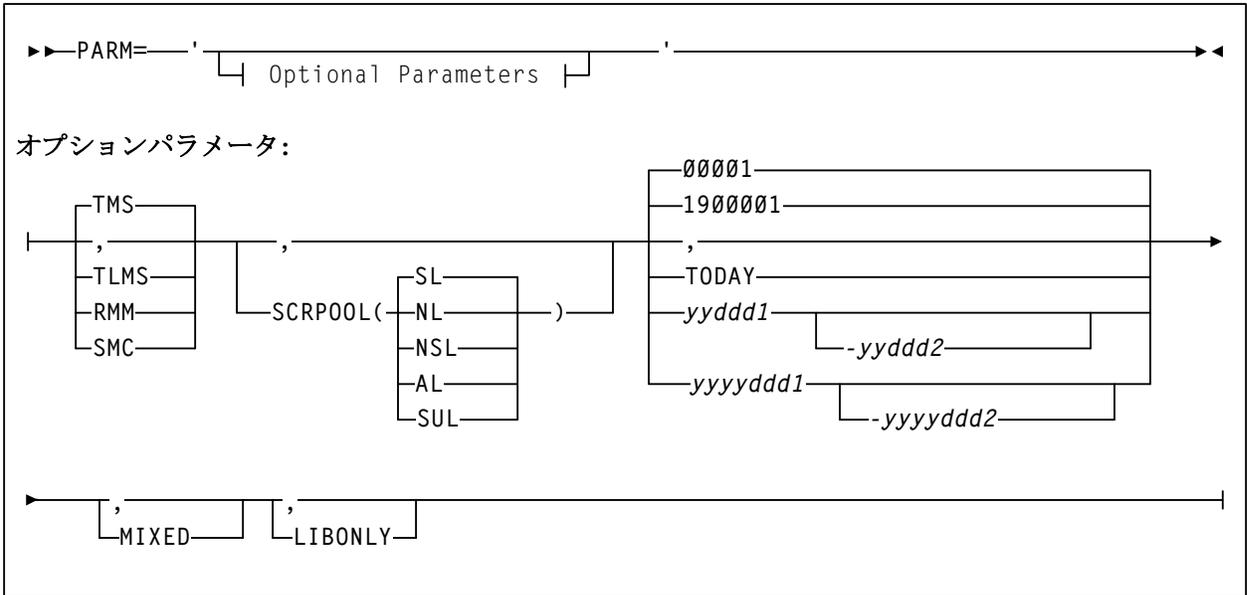
RESTore ユーティリティー



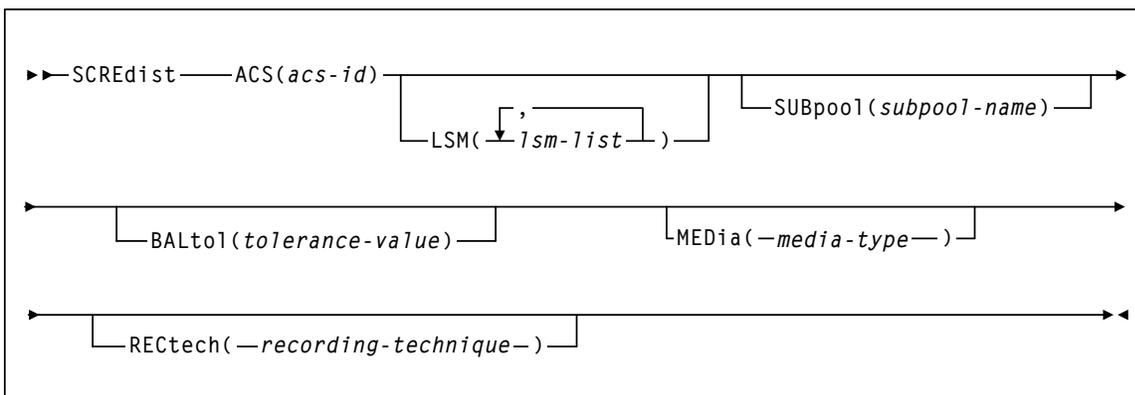
SCRATCH ユーティリティー



SLUCONDB ユーティリティー



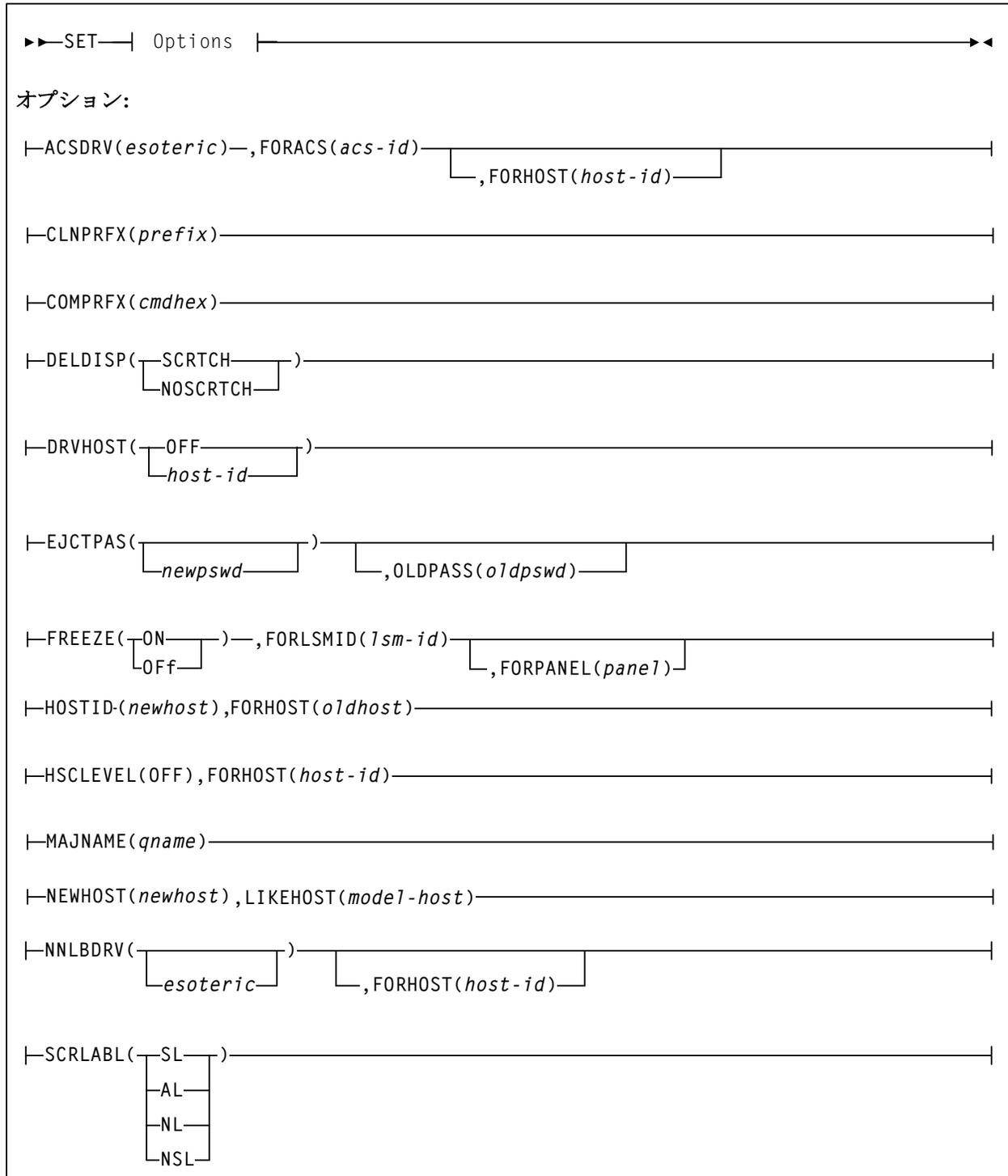
スクラッチ再分配 (SCREdist) ユーティリティー



メディアタイプ	記録方式
LONGItud、標準	LONGItud、18track、36track、36Atrack、36Btrack、36Ctrack
ECART	
ZCART	
DD3、DD3A、DD3B、DD3C	HELical、DD3
STK1、STK1R	STK1R、STK1R34、STK1R35、STK1RA、STK1RA34、STK1RA35、STK1RB、STK1RB34、STK1RB35、STK1RAB、STK1RAB4、STK1RAB5、STK1RC、STK1RC34、STK1RC35、STK1RD、STK1RDE、STK1RDN、STK1RD34、STK1RD35、STK1RDE4、STK1RDE5
STK2、STK2P	STK2P、STK2P34、STK2P35、STK2PA、STK2PA34、STK2PA35、STK2PB、STK2PB34、STK2PB35
LTO-10G、LTO-35G、LTO-50G、LTO-100G、LTO-200G、LTO-400G、LTO-400W、LTO-800G、LTO-800W、LTO-1.5T、LTO-1.5W	*
SDLT、SDLT-2、SDLT-S1、SDLT-S2、SDLT-S3、SDLT-S4、SDLT-4	*
T10000T1、T10000TS、T10000T2、T10000TT	T10K、T10KN、T10KE、T10KA、T10KAN、T1A34、T1A35、T10KAE、T1AE34、T1AE35、T10KB、T10KBN、T1B34、T1B35、T10KBE、T1BE34、T1BE35、T10KC、T10KCE、T10KCN、T1C34、T1C35、T1CE34、T1CE35

* 対応する記録方式がありません。

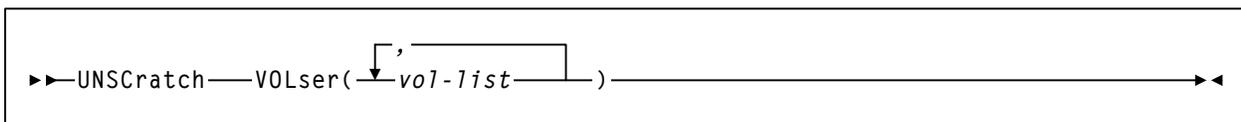
SET ユーティリティー



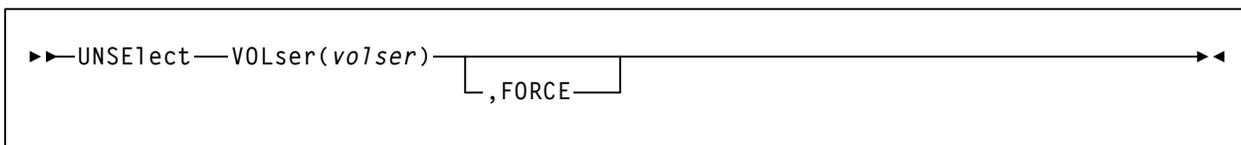
SET ユーティリティー (続き)



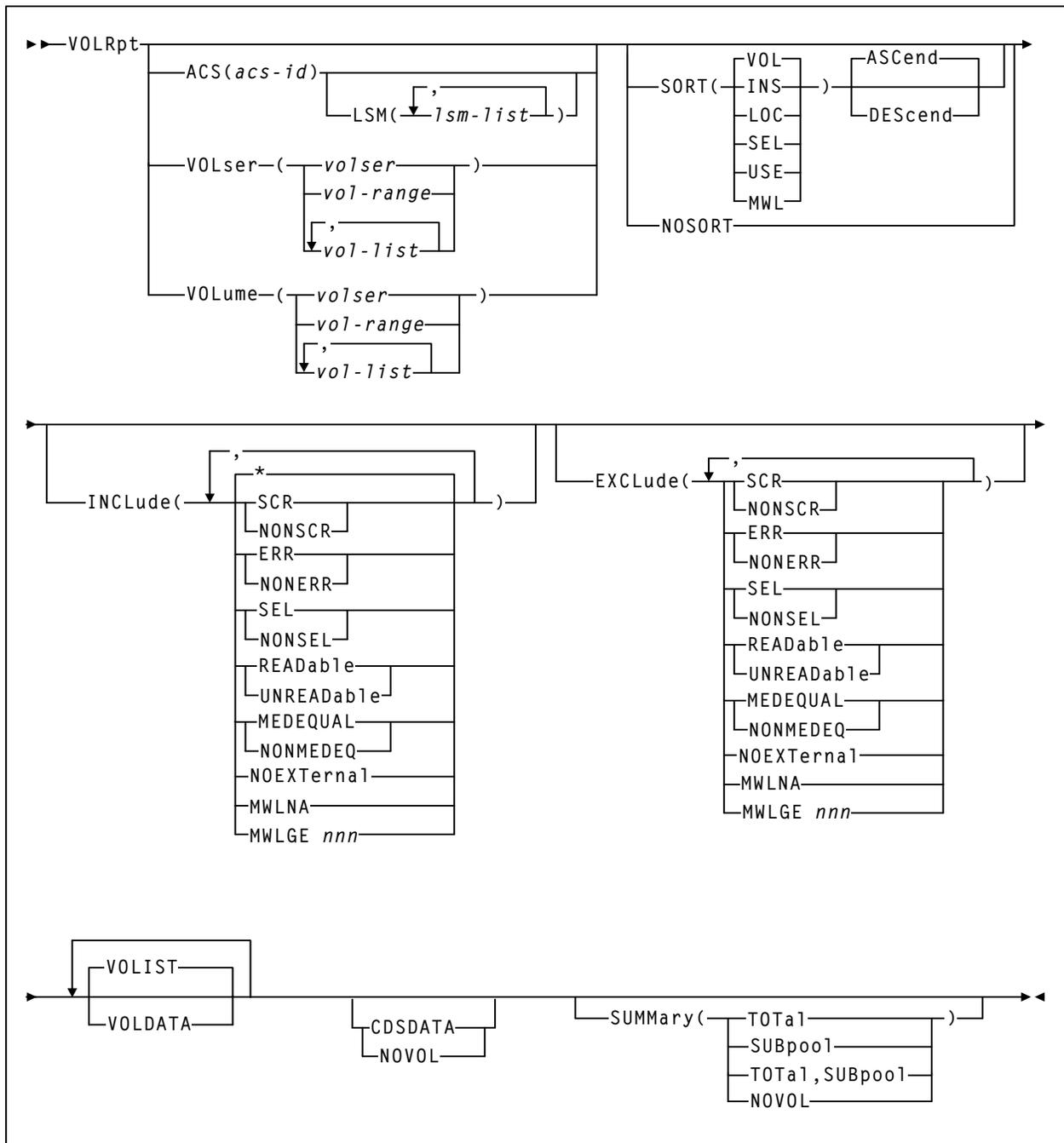
UNSCratch ユーティリティー



UNSElect ユーティリティー



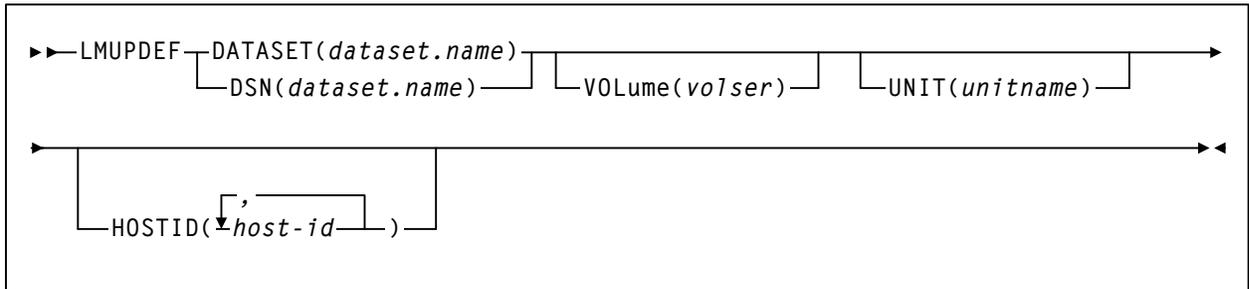
ボリュームレポート (VOLRpt) ユーティリティー



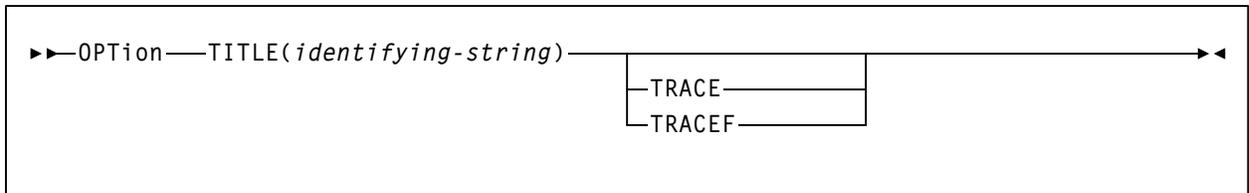
制御文の構文

この項には、制御文の構文が記載されています。制御文の詳細については、『HSC システムプログラマーズガイド』を参照してください。

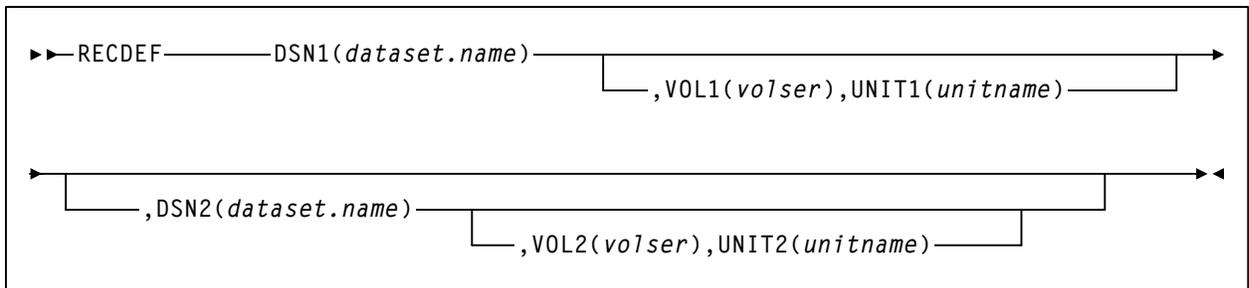
LMUPDEF コマンドおよび制御文



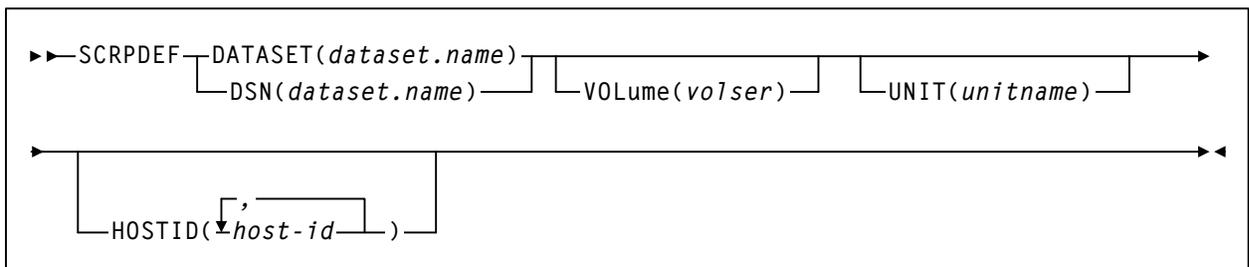
OPTION 制御文



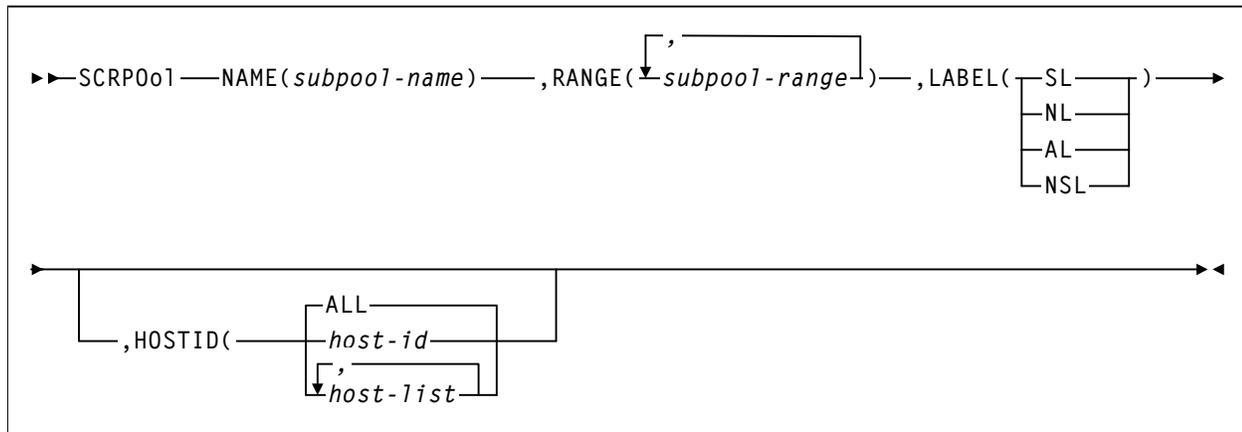
再構成定義 (RECDEF) 制御文



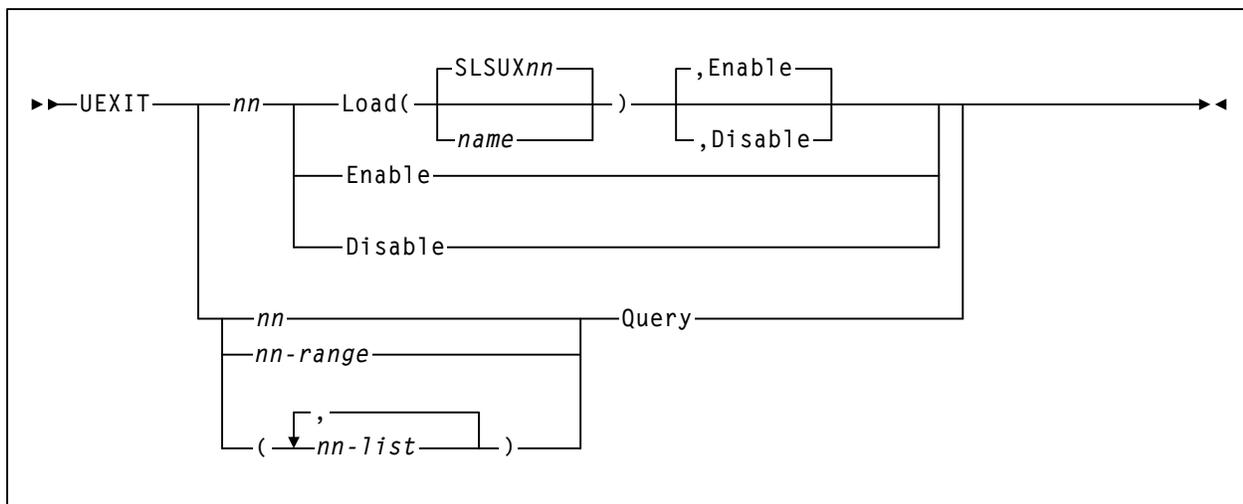
スクラッチサブプール定義 (SCRPFDEF) コマンドおよび制御文



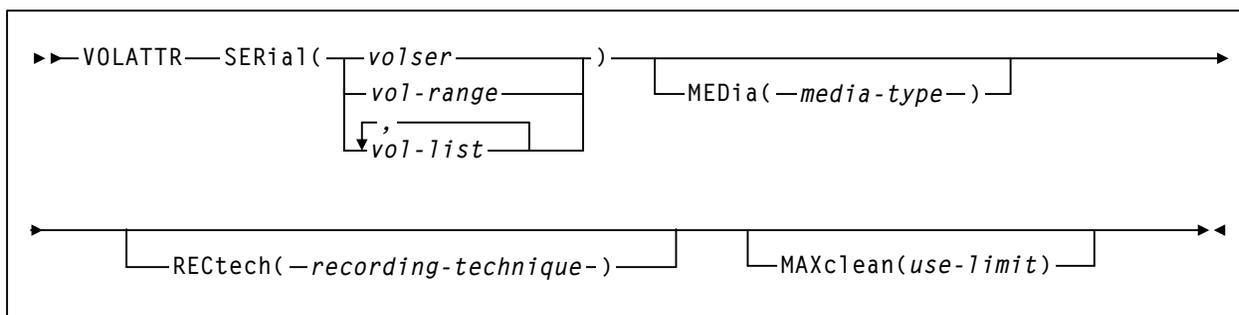
スクラッチサブプール (SCRPOOL) 制御文



ユーザー出口コマンドおよび制御文



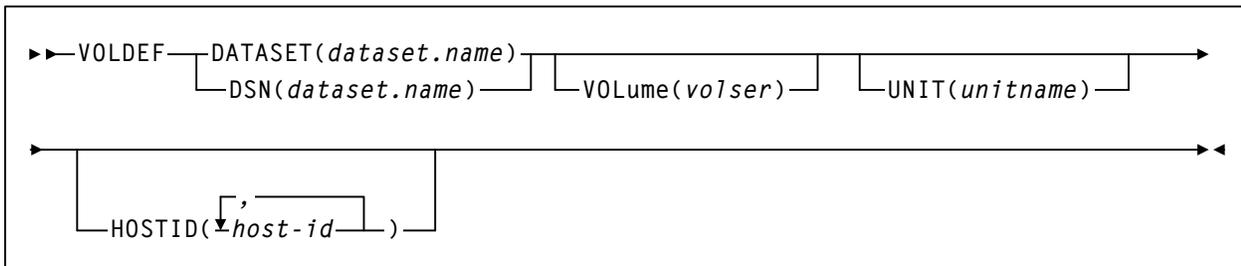
ボリューム属性 (VOLATTR) 制御文



メディアタイプ	記録方式
LONGItud、標準	LONGItud、18track、36track、36Atrack、36Btrack、36Ctrack
ECART	
ZCART	
DD3A、DD3B、DD3C、DD3D	HELical、DD3
STK1R、STK1U、STK1Y	STK1R、STK1R34、STK1R35、STK1RA、STK1RA34、STK1RA35、STK1RB、STK1RB34、STK1RB35、STK1RAB、STK1RAB4、STK1RAB5、STK1RC、STK1RC34、STK1RC35、STK1RD、STK1RDE、STK1RDN、STK1RD34、STK1RD35、STK1RDE4、STK1RDE5
STK2P、STK2W	STK2P、STK2P34、STK2P35、STK2PA、STK2PA34、STK2PA35、STK2PB、STK2PB34、STK2PB35
LTO-10G、LTO-35G、LTO-50G、LTO-100G、LTO-200G、LTO-400G、LTO-400W、LTO-800G、LTO-800W、LTO-1.5T、LTO-1.5W	*
SDLT、SDLT-2、SDLT-S1、SDLT-S2、SDLT-S3、SDLT-S4、SDLT-4	*
T10000T1、T10000TS、T10000T2、T10000TT、T10000CT、T10000CL	T10K、T10KN、T10KE、T10KA、T10KAN、T1A34、T1A35、T10KAE、T1AE34、T1AE35、T10KB、T10KBN、T1B34、T1B35、T10KBE、T1BE34、T1BE35、T10KC、T10KCE、T10KCN、T1C34、T1C35、T1CE34、T1CE35

* 対応する記録方式がありません。

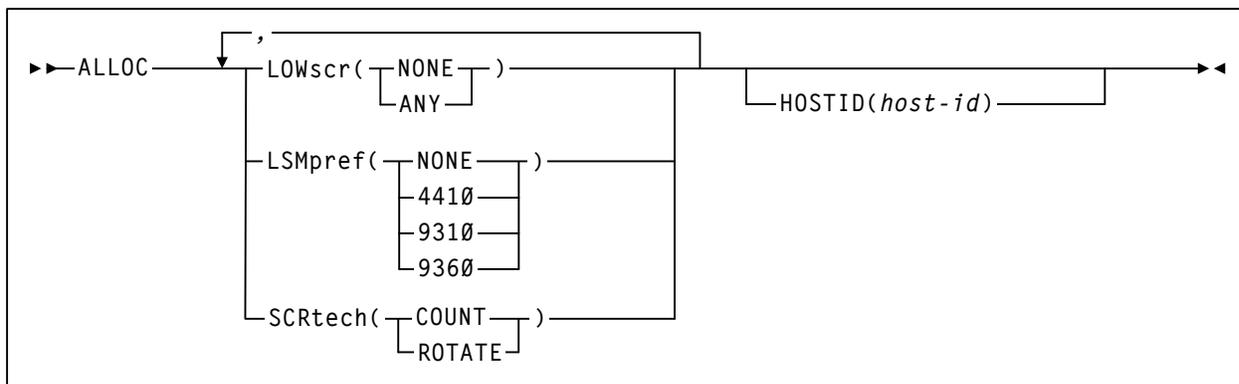
ボリューム属性定義 (VOLDEF) コマンドおよび制御文



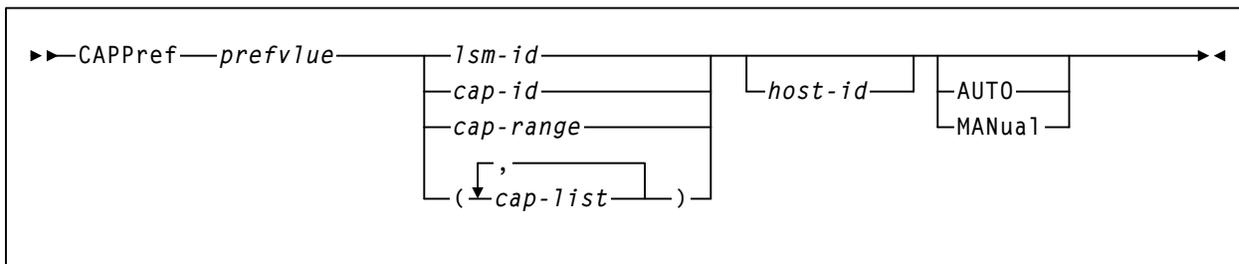
HSC オペレータコマンドの構文

この項には、オペレータコマンドの構文が記載されています。コマンドの詳細については、『HSC オペレータガイド』を参照してください。

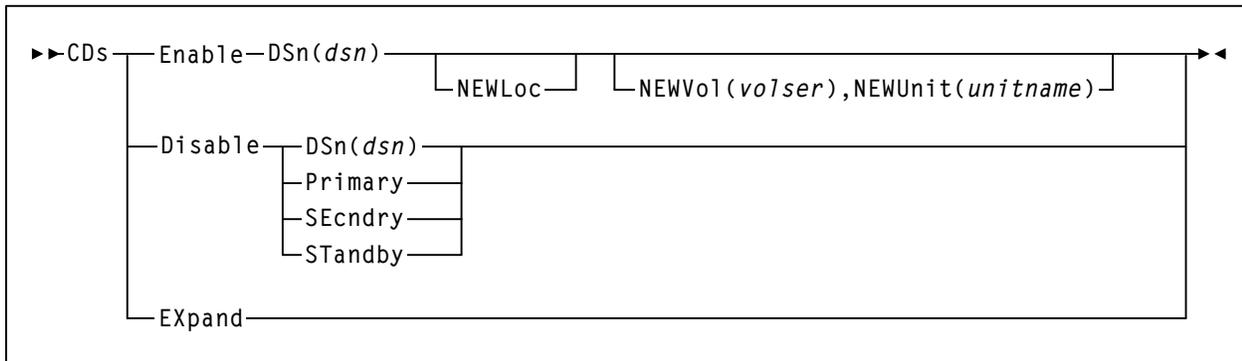
割り振り (ALLOC) コマンドおよび制御文



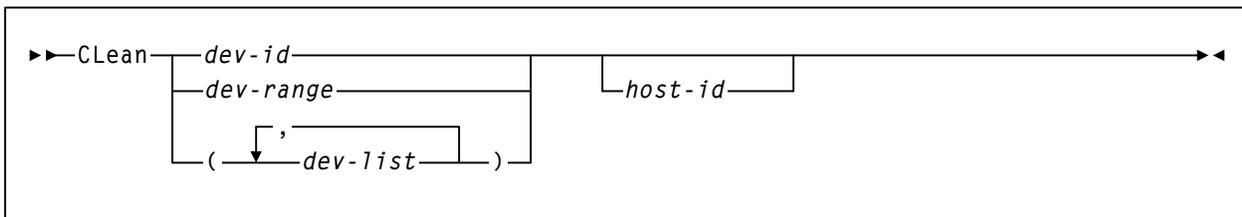
CAP 優先 (CAPPref) コマンドおよび制御文



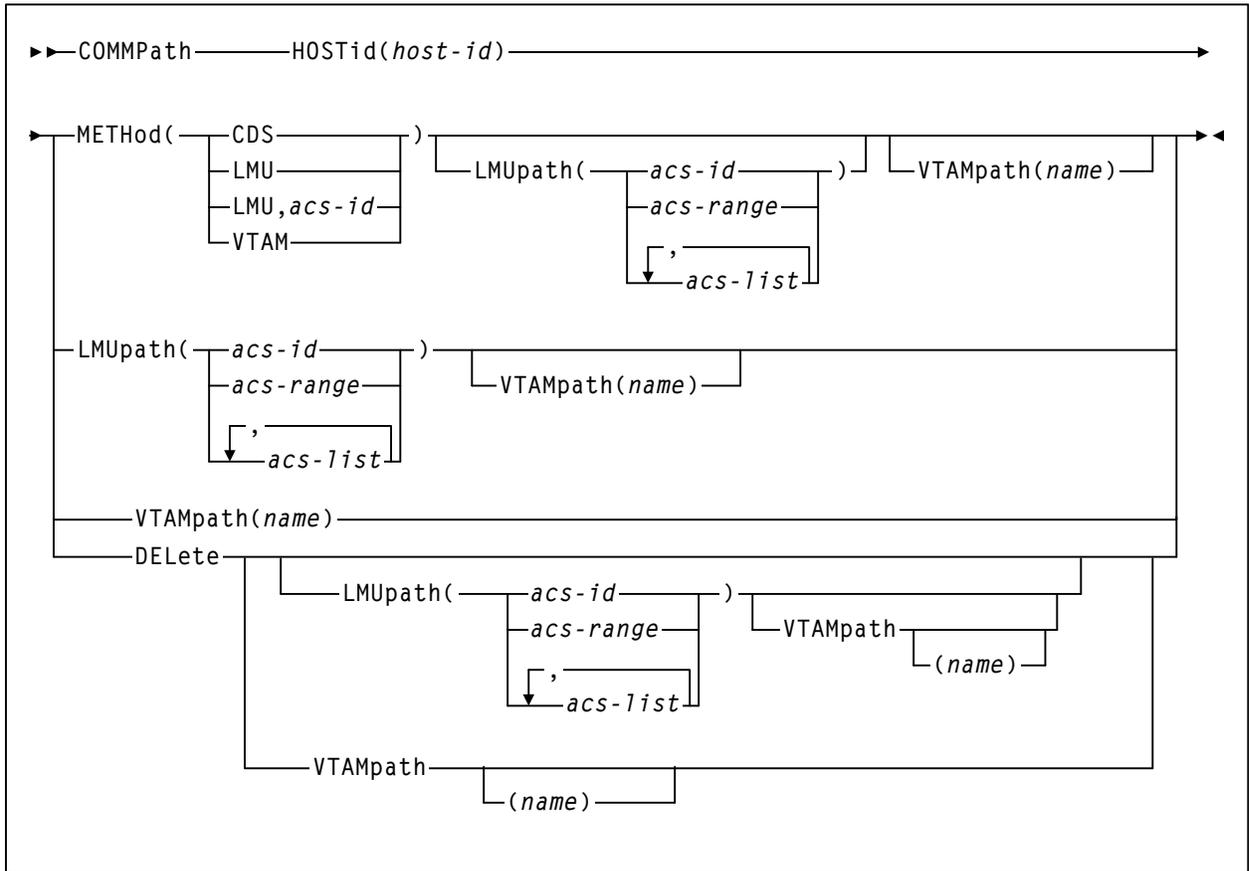
CDs 使用可 / 使用不可コマンド



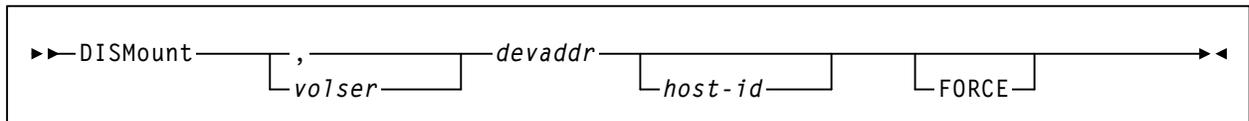
CLean コマンド



通信パス (COMMPath) コマンドおよび制御文

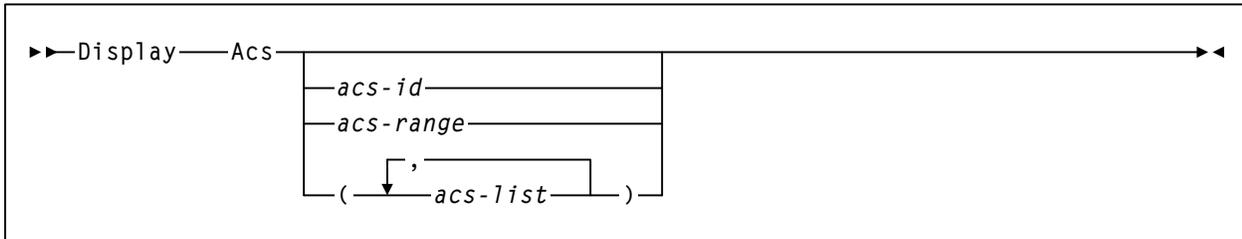


DISMount コマンド

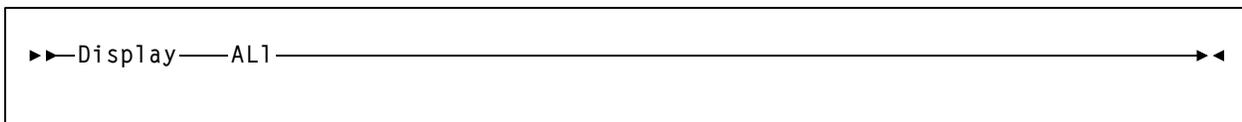


DISPLAY コマンド

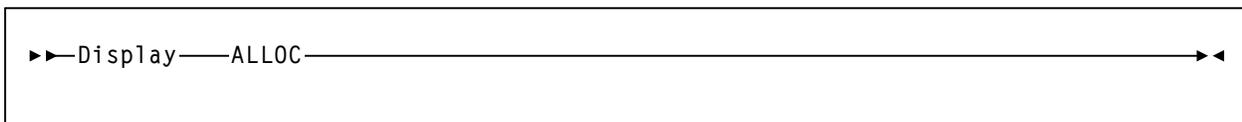
Display Acs



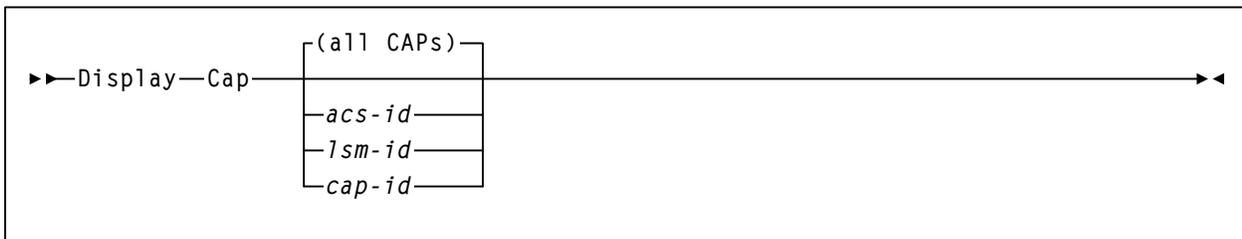
Display ALI



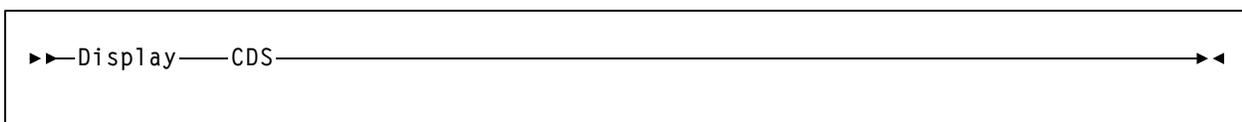
Display ALLOC



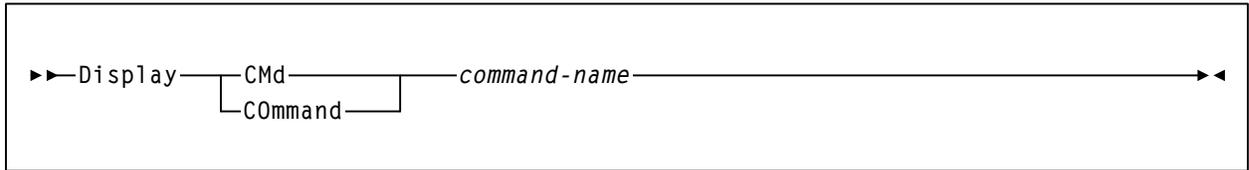
Display Cap



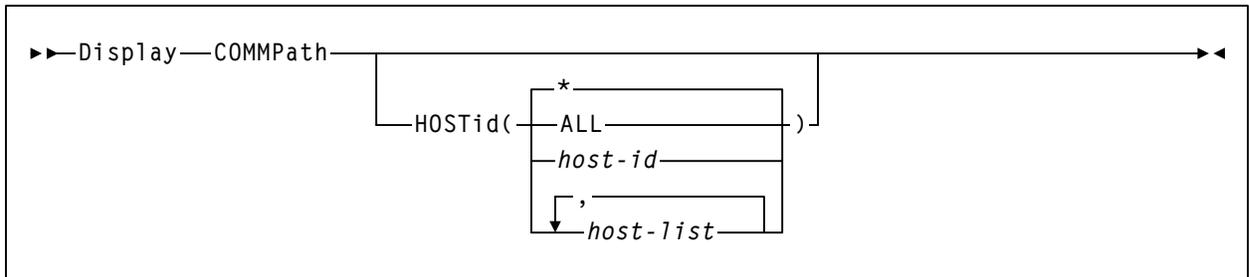
Display CDS



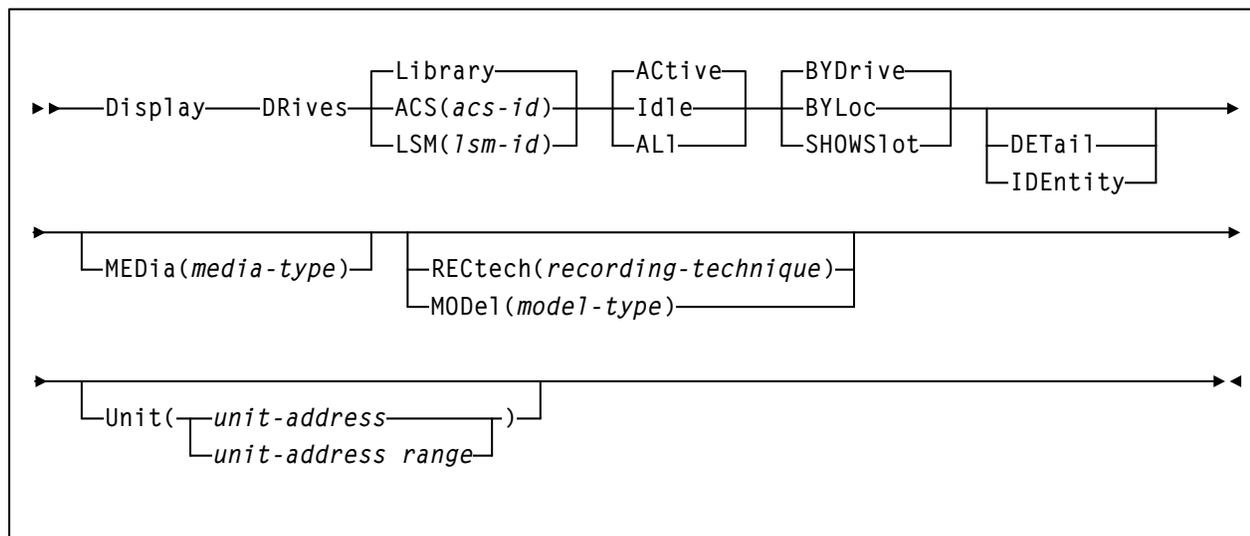
Display CMd



Display COMMPath



Display DRives

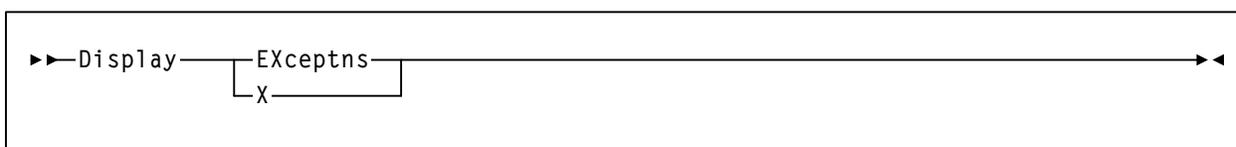


メディアタイプ	記録方式	モデルタイプ
LONGitud 標準	LONGitud、18track、36track、 36Atrack、36Btrack、36Ctrack	4480、4490、9490、 9490EE
ECART		
ZCART		
DD3、DD3A、DD3B、DD3C、 DD3D	HELical、DD3	SD3
STK1、STK1R、STK1U、STK1Y	STK1R、STK1R34、STK1R35、 STK1RA、STK1RA34、 STK1RA35、STK1RB、STK1RB34、 STK1RB35、STK1RAB、 STK1RAB4、STK1RAB5、 STK1RC、STK1RC34、STK1RC35、 STK1RD、STK1RDE、STK1RDN、 STK1RD34、STK1RD35、 STK1RDE4、STK1RDE5	9840、984035、T9840B、 T984035B、T9840C、 T9840C35、T9840D、 T9840D35、T9840DE、 T9840DE5
STK2、STK2P、STK2W	STK2P、STK2P34、STK2P35、 STK2PA、STK2PA34、STK2PA35、 STK2PB、STK2PB34、STK2PB35	T9940A、T9940A35、 T9940B、T9940B35
LTO-10G、LTO-35G、LTO-50G、 LTO-100G、LTO-200G、LTO-400G、 LTO-400W、LTO-800G、 LTO-800W、LTO-1.5T、LTO-1.5W、 LTO-CLN1、LTO-CLN2、 LTO-CLNU	*	HP-LTO2、HP-LTO3、 HP-LTO4、HP-LTO5、 IBM-LTO2、IBM-LTO3、 IBM-LTO4、IBM-LTO5

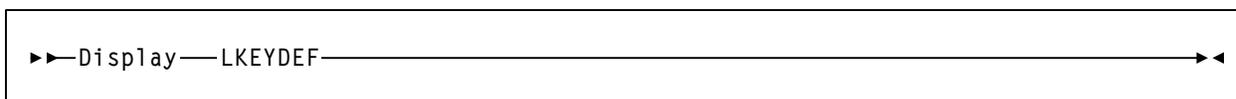
メディアタイプ	記録方式	モデルタイプ
SDLT、SDLT-2、SDLT-S1、 SDLT-S2、SDLT-S3、SDLT-S4、 SDLT-4	*	SDLT-600、DLT-S4
T10000T1、T10000TS、T10000T2、 T10000TT、T10000CT、T10000CL	T10K、T10KN、T10KE、T10KA、 T10KAN、T1A34、T1A35、 T10KAE、T1AE34、T1AE35、 T10KB、T10KBN、T1B34、T1B35、 T10KBE、T1BE34、T1BE35、 T10KC、T10KCE、T10KCN、 T1C34、T1C35、T1CE34、T1CE35	T1A34、T1A35、 T1AE34、T1AE35、 T1B34、T1B35、 T1BE34、T1BE35、 T1C34、T1C35、 T1CE34、T1CE35

* 対応する記録方式がありません。

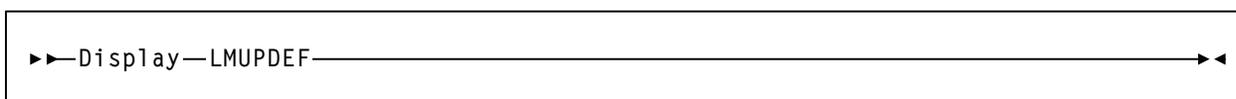
Display Exceptions



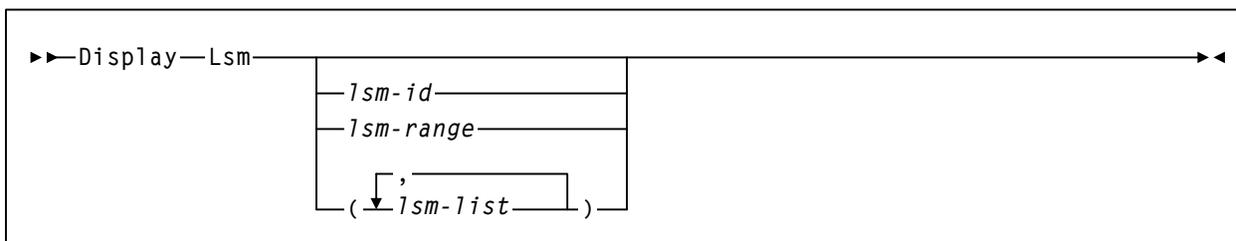
Display LKEYDEF



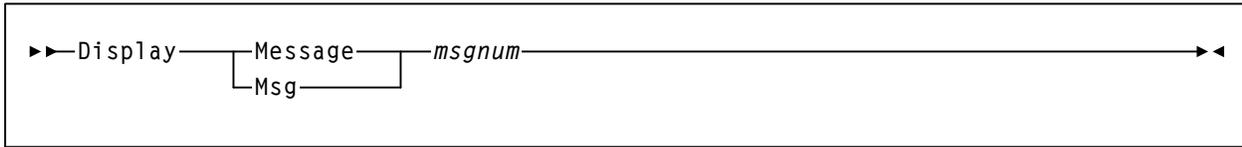
Display LMUPDEF



Display LSM



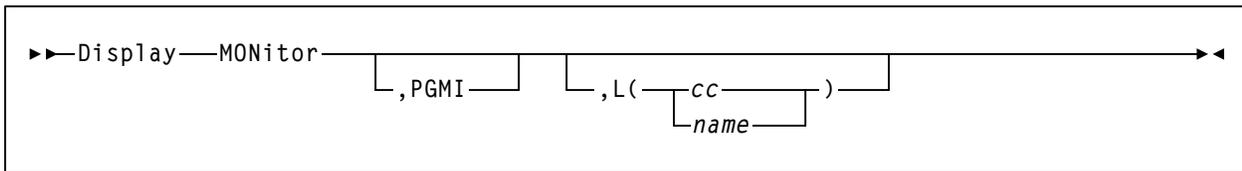
Display Message



Display MNTD



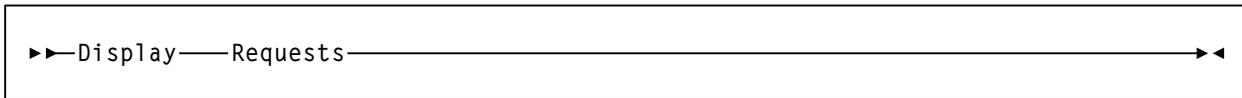
Display MONitor



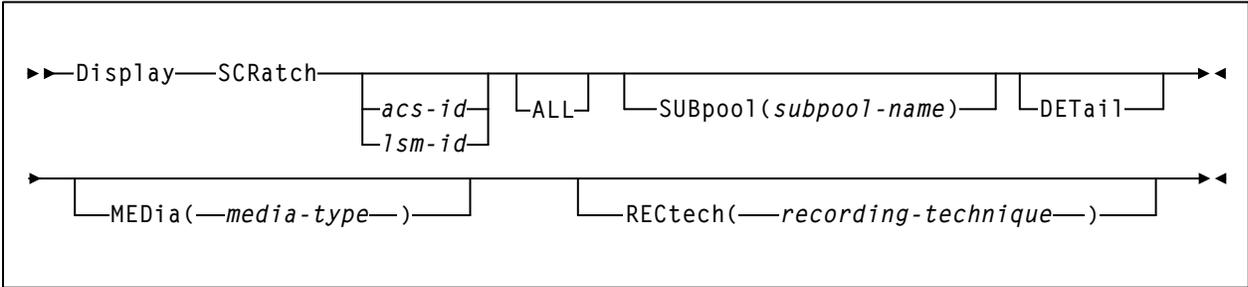
Display OPTion



Display Requests



Display SCRatch



メディアタイプ	記録方式
LONGitud 標準	LONGitud、18track、36track、36Atrack、36Btrack、36Ctrack
ECART	
ZCART	
DD3、DD3A、DD3B、DD3C	HELical、DD3
STK1、STK1R	STK1R、STK1R34、STK1R35、STK1RA、STK1RA34、STK1RA35、STK1RB、STK1RB34、STK1RB35、STK1RAB、STK1RAB4、STK1RAB5、STK1RC、STK1RC34、STK1RC35、STK1RD、STK1RDE、STK1RDN、STK1RD34、STK1RD35、STK1RDE4、STK1RDE5
STK2、STK2P	STK2P、STK2P34、STK2P35、STK2PA、STK2PA34、STK2PA35、STK2PB、STK2PB34、STK2PB35
LTO-10G、LTO-35G、LTO-50G、LTO-100G、LTO-200G、LTO-400G、LTO-400W、LTO-800G、LTO-800W、LTO-1.5T、LTO-1.5W	*
SDLT、SDLT-2、SDLT-S1、SDLT-S2、SDLT-S3、SDLT-S4、SDLT-4	*
T10000T1、T10000TS、T10000T2、T10000TT	T10K、T10KN、T10KE、T10KA、T10KAN、T1A34、T1A35、T10KAE、T1AE34、T1AE35、T10KB、T10KBN、T1B34、T1B35、T10KBE、T1BE34、T1BE35、T10KC、T10KCE、T10KCN、T1C34、T1C35、T1CE34、T1CE35

* 対応する記録方式がありません。

Display SCRDEF

▶▶ Display — SCRDEF —————▶▶

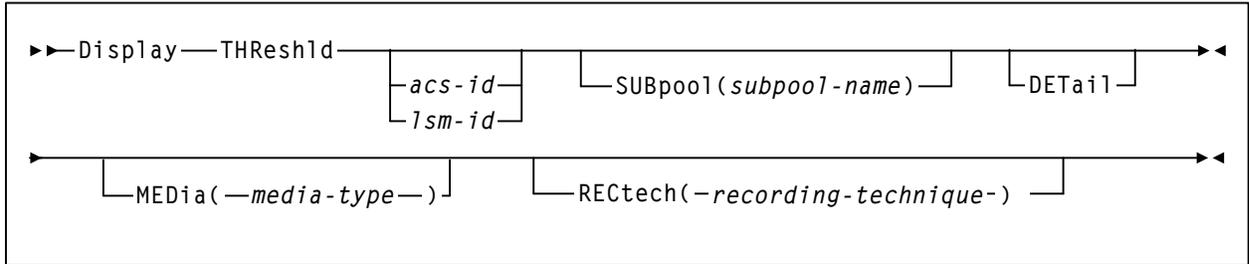
Display SRVlev

▶▶ Display — SRVlev —————▶▶

Display Status

▶▶ Display — Status —————▶▶

Display THReshd



メディアタイプ	記録方式
LONGItud 標準	LONGItud、18track、36track、36Atrack、36Btrack、36Ctrack
ECART	
ZCART	
DD3、DD3A、DD3B、DD3C	HELical、DD3
STK1、STK1R	STK1R、STK1R34、STK1R35、STK1RA、STK1RA34、STK1RA35、STK1RB、STK1RB34、STK1RB35、STK1RAB、STK1RAB4、STK1RAB5、STK1RC、STK1RC34、STK1RC35、STK1RD、STK1RDE、STK1RDN、STK1RD34、STK1RD35、STK1RDE4、STK1RDE5
STK2、STK2P	STK2P、STK2P34、STK2P35、STK2PA、STK2PA34、STK2PA35、STK2PB、STK2PB34、STK2PB35
LTO-10G、LTO-35G、LTO-50G、LTO-100G、LTO-200G、LTO-400G、LTO-400W、LTO-800G、LTO-800W、LTO-1.5T、LTO-1.5W	*
SDLT、SDLT-2、SDLT-S1、SDLT-S2、SDLT-S3、SDLT-S4、SDLT-4	*
T10000T1、T10000TS、T10000T2、T10000TT	T10K、T10KN、T10KE、T10KA、T10KAN、T1A34、T1A35、T10KAE、T1AE34、T1AE35、T10KB、T10KBN、T1B34、T1B35、T10KBE、T1BE34、T1BE35、T10KC、T10KCE、T10KCN、T1C34、T1C35、T1CE34、T1CE35

* 対応する記録方式がありません。

Display TREQDEF

▶▶ Display — TREQDEF —————▶▶

Display UNITDEF

▶▶ Display — UNITDEF —————▶▶

Display VOLDEF

▶▶ Display — VOLDEF —————▶▶

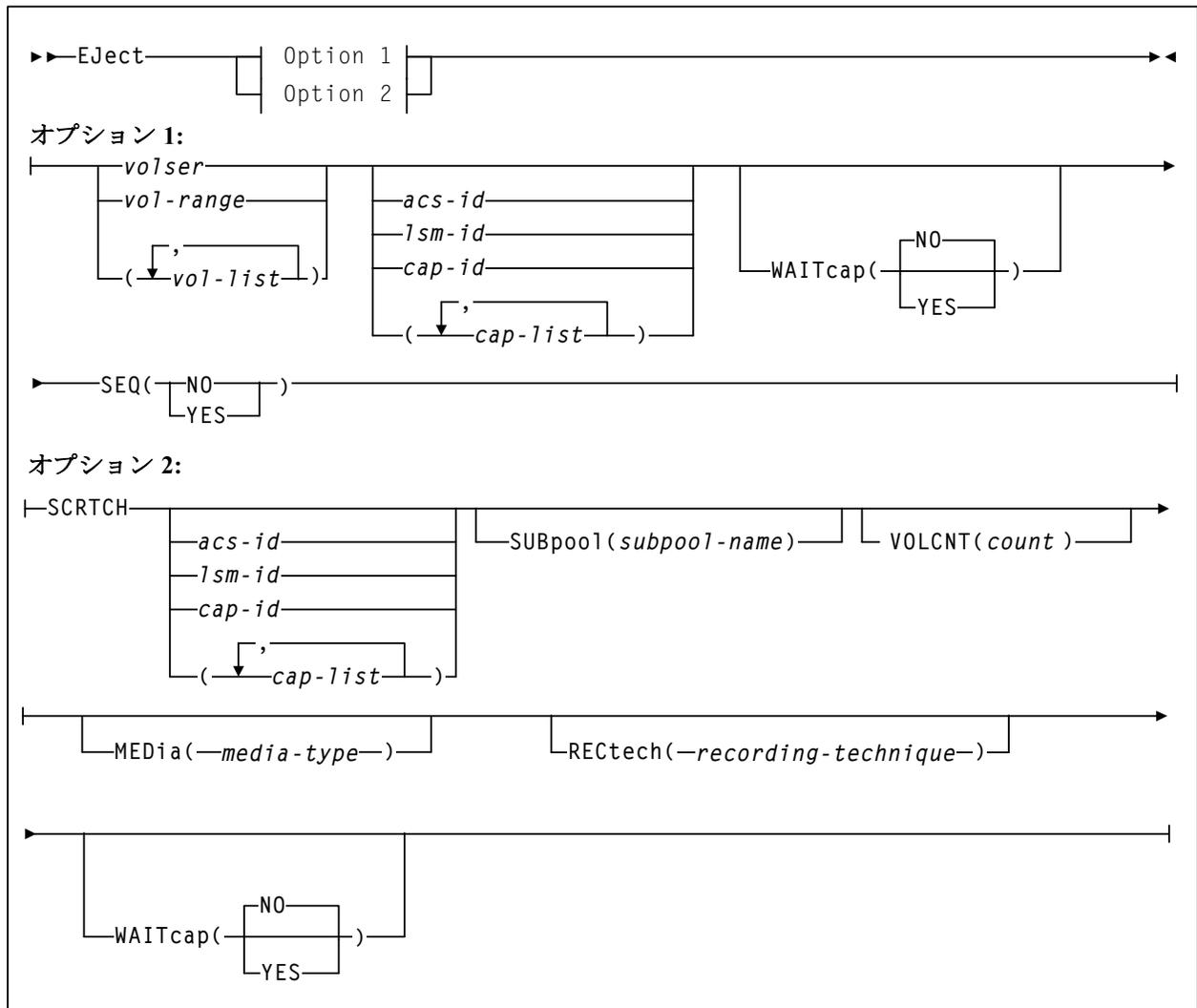
Display Volume

▶▶ Display — Volser —————▶▶
 └─ Volume —————▶▶
 └─ volser —————▶▶
 └─ vol-range —————▶▶
 └─ DETail —————▶▶
 └─ (vol-list) —————▶▶

DRAIN CAP コマンド

▶▶ DRAIN — cap-id —————▶▶
 └─ (cap-list) —————▶▶
 └─ ENTER —————▶▶
 └─ EJECT —————▶▶

Eject コマンド

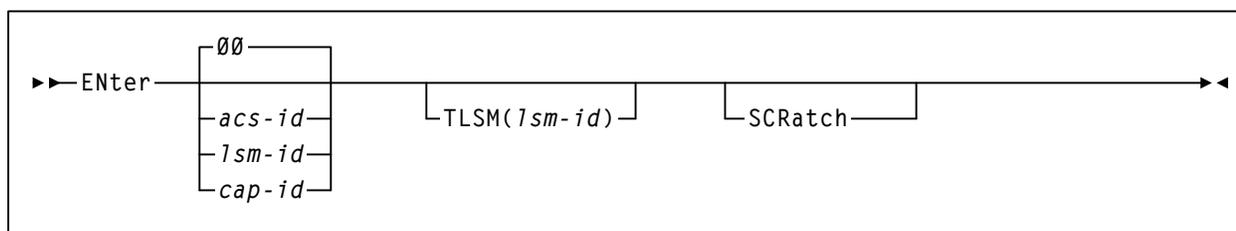


メディアタイプ	記録方式
LONGitud	LONGitud、18track、36track、36Atrack、36Btrack、36Ctrack
標準	
ECART	
ZCART	
DD3、DD3A、DD3B、DD3C	HELical、DD3

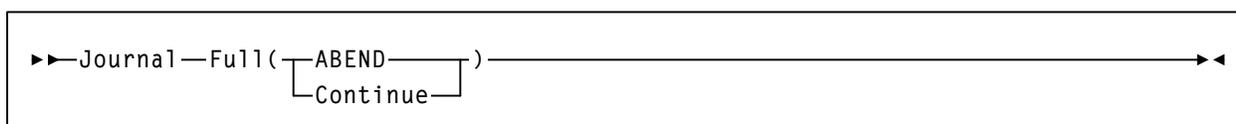
メディアタイプ	記録方式
STK1、STK1R	STK1R、STK1R34、STK1R35、STK1RA、STK1RA34、STK1RA35、STK1RB、STK1RB34、STK1RB35、STK1RAB、STK1RAB4、STK1RAB5、STK1RC、STK1RC34、STK1RC35、STK1RD、STK1RDE、STK1RDN、STK1RD34、STK1RD35、STK1RDE4、STK1RDE5
STK2、STK2P	STK2P、STK2P34、STK2P35、STK2PA、STK2PA34、STK2PA35、STK2PB、STK2PB34、STK2PB35
LTO-10G、LTO-35G、LTO-50G、LTO-100G、LTO-200G、LTO-400G、LTO-400W、LTO-800G、LTO-800W、LTO-1.5T、LTO-1.5W	*
SDLT、SDLT-2、SDLT-S1、SDLT-S2、SDLT-S3、SDLT-S4、SDLT-4	*
T10000T1、T10000TS、T10000T2、T10000TT	T10K、T10KN、T10KE、T10KA、T10KAN、T1A34、T1A35、T10KAE、T1AE34、T1AE35、T10KB、T10KBN、T1B34、T1B35、T10KBE、T1BE34、T1BE35、T10KC、T10KCE、T10KCN、T1C34、T1C35、T1CE34、T1CE35

* 対応する記録方式がありません。

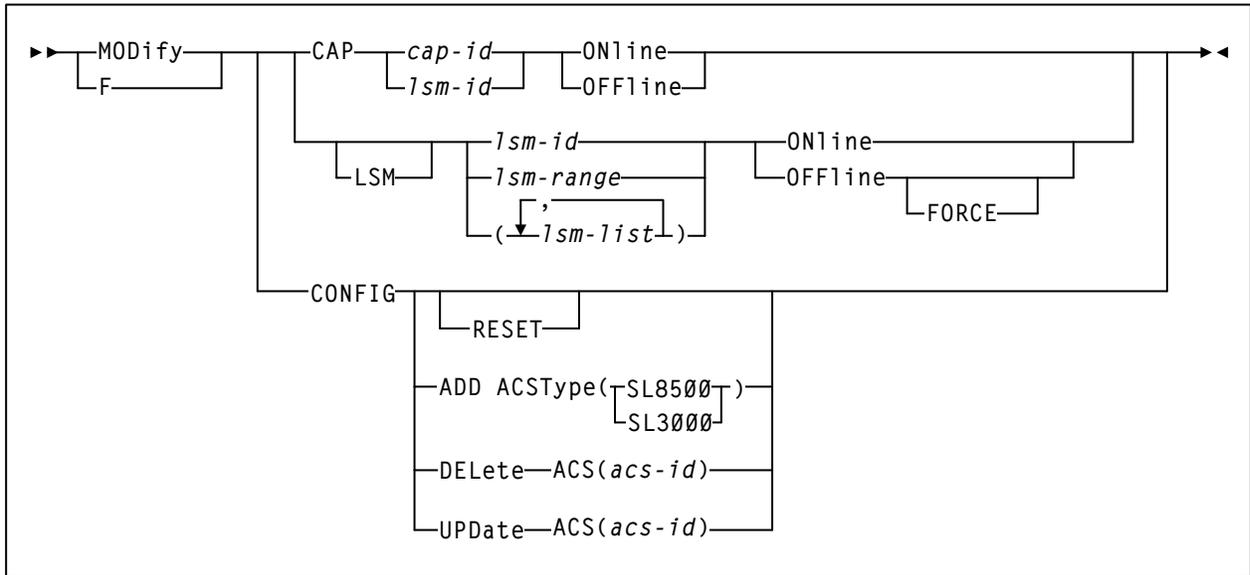
ENter コマンド



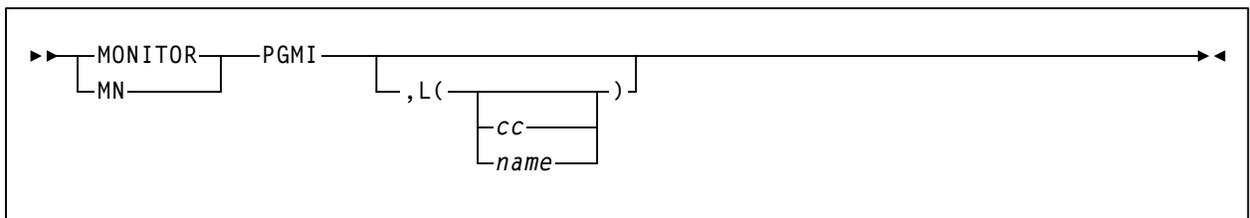
Journal コマンド



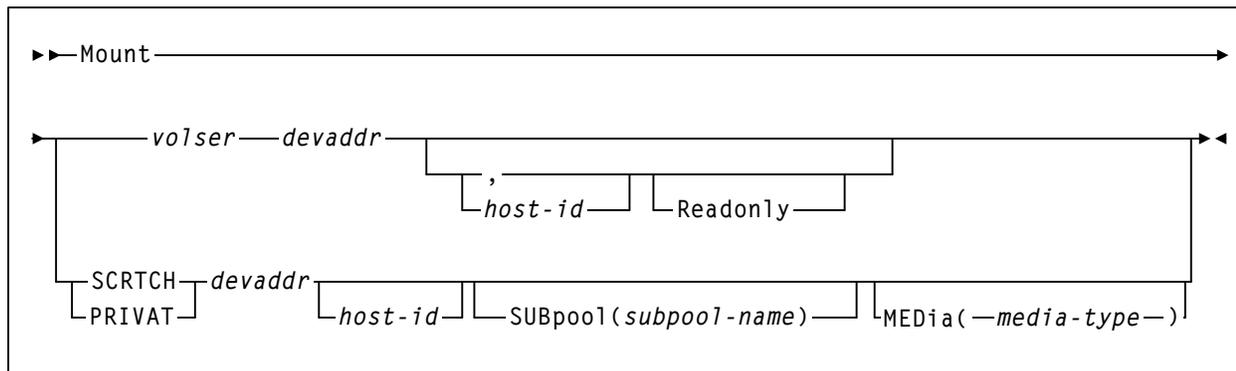
MODify コマンド



MONITOR コマンド

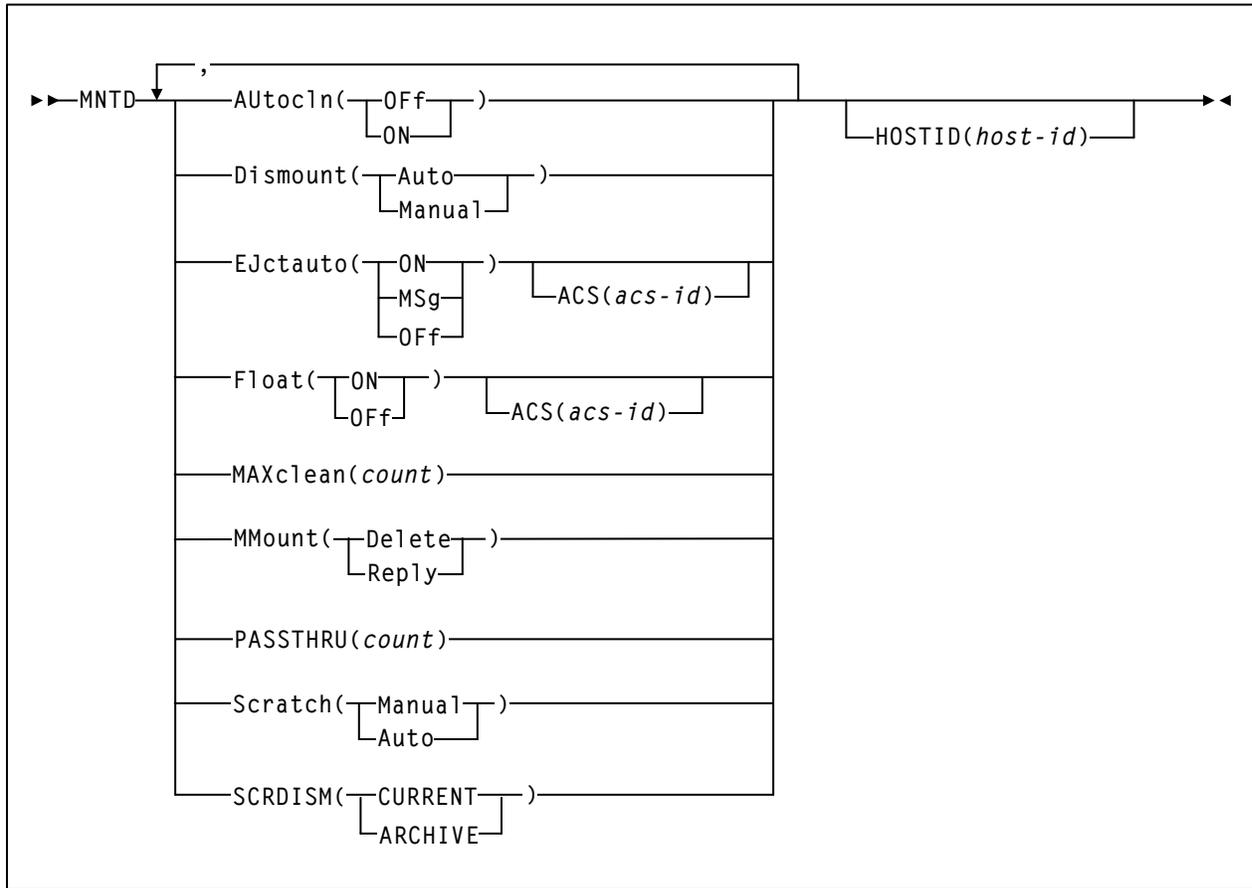


Mount コマンド

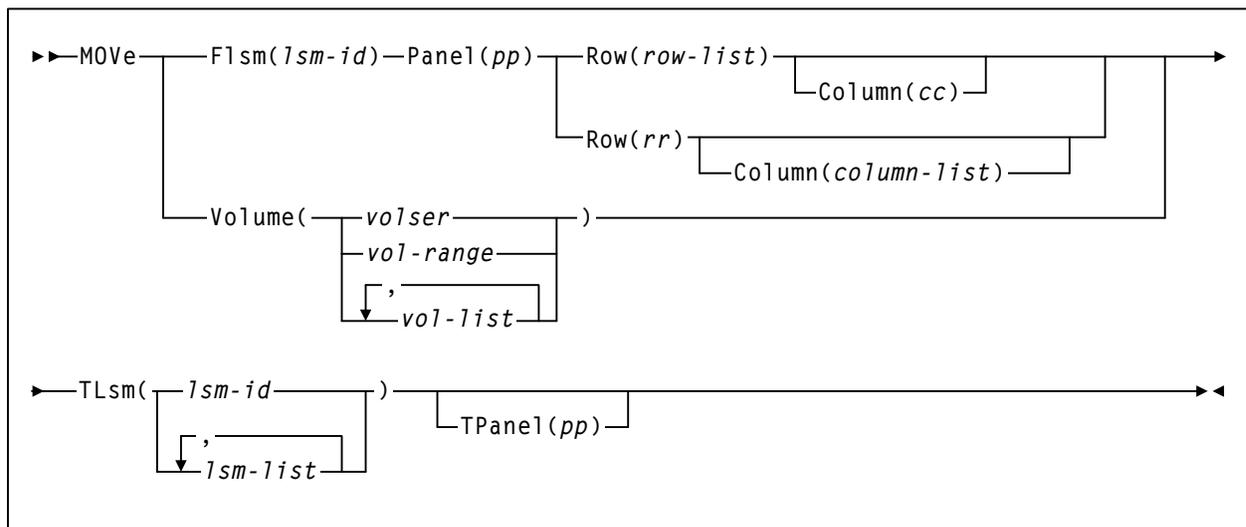


メディアタイプ
LONGtud
標準
ECART
ZCART
DD3、DD3A、DD3B、DD3C
STK1、STK1R
STK2、STK2P
LTO-10G、LTO-35G、LTO-50G、LTO-100G、LTO-200G、 LTO-400G、LTO-400W、LTO-800G、LTO-800W、 LTO-1.5T、LTO-1.5W
SDLT、SDLT-2、SDLT-S1、SDLT-S2、SDLT-S3、 SDLT-S4、SDLT-4
T10000T1、T10000TS、T10000T2、T10000TT

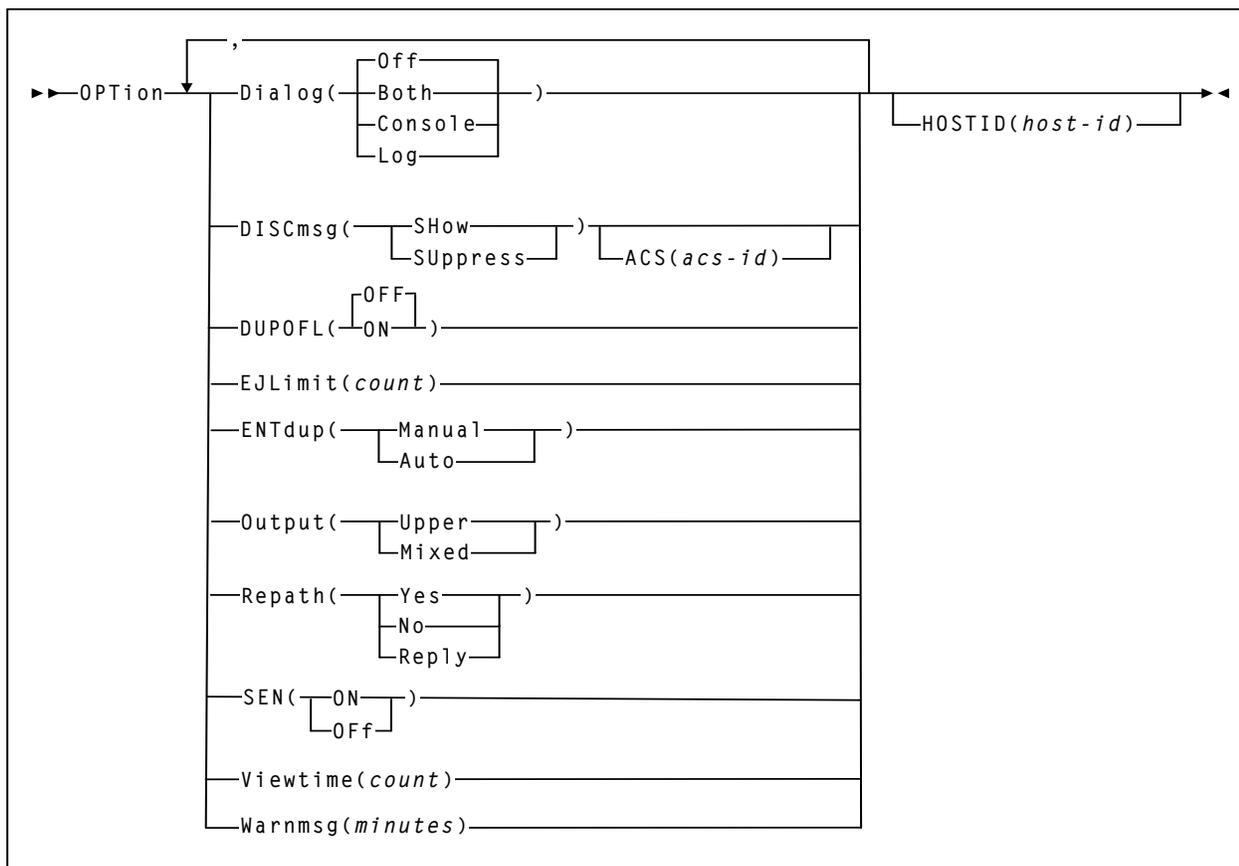
Mount/Dismount オプション (MNTD) コマンドおよび制御文



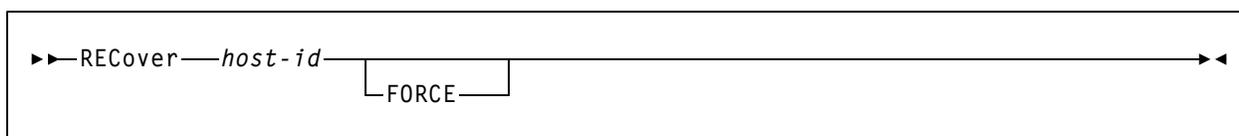
MOVE コマンド



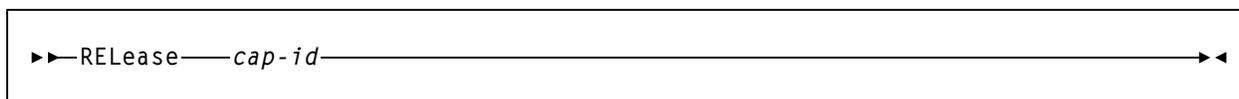
OPTion コマンドおよび制御文



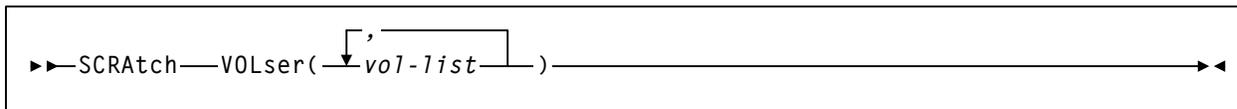
RECover Host コマンド



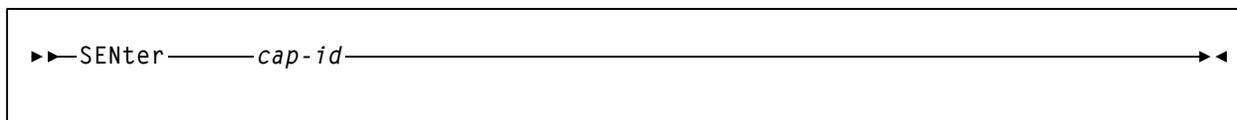
RELease CAP コマンド



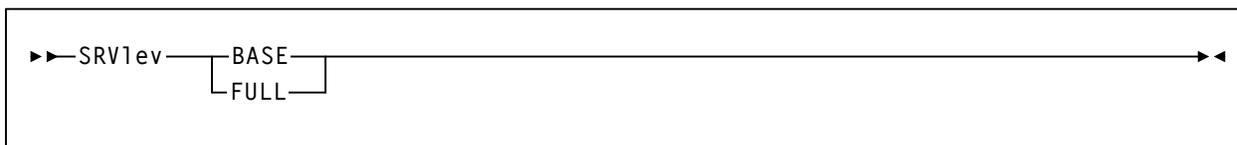
SCRAtch コマンド



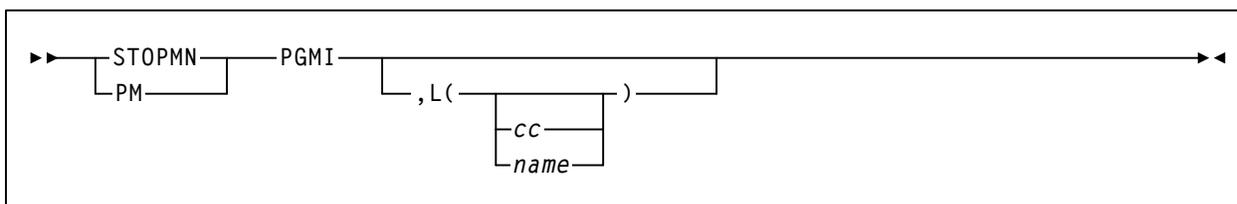
SEnTer コマンド



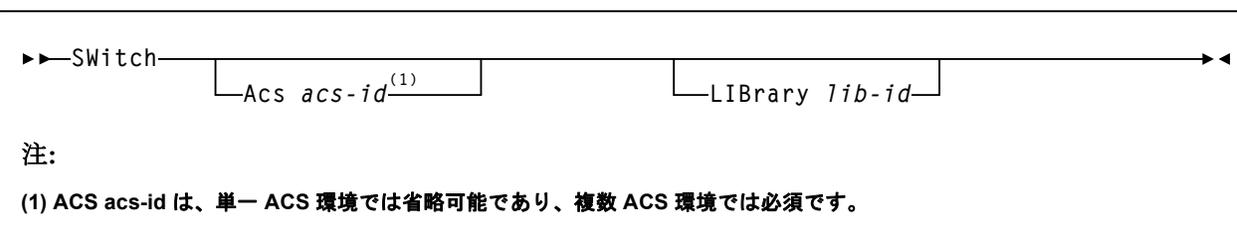
SRVlev コマンド



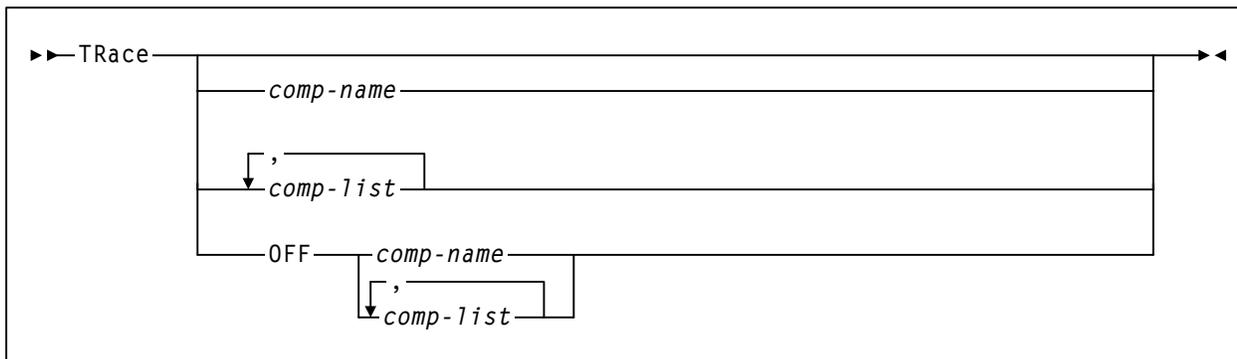
監視停止 (STOPMN) コマンド



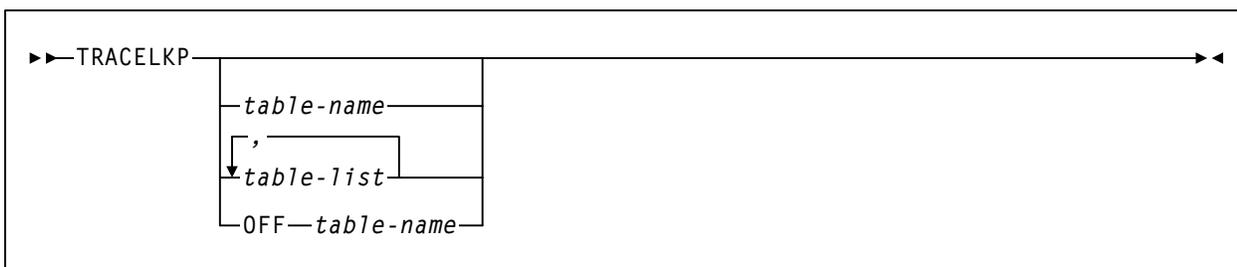
SWitch コマンド



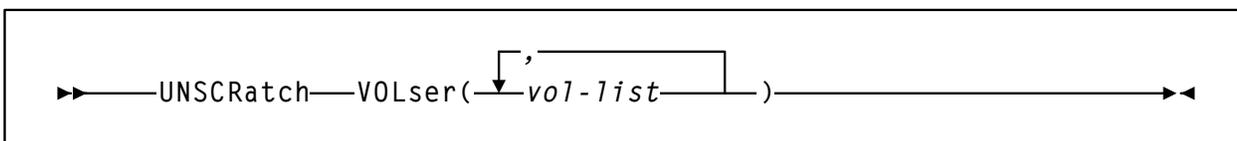
TRace コマンド



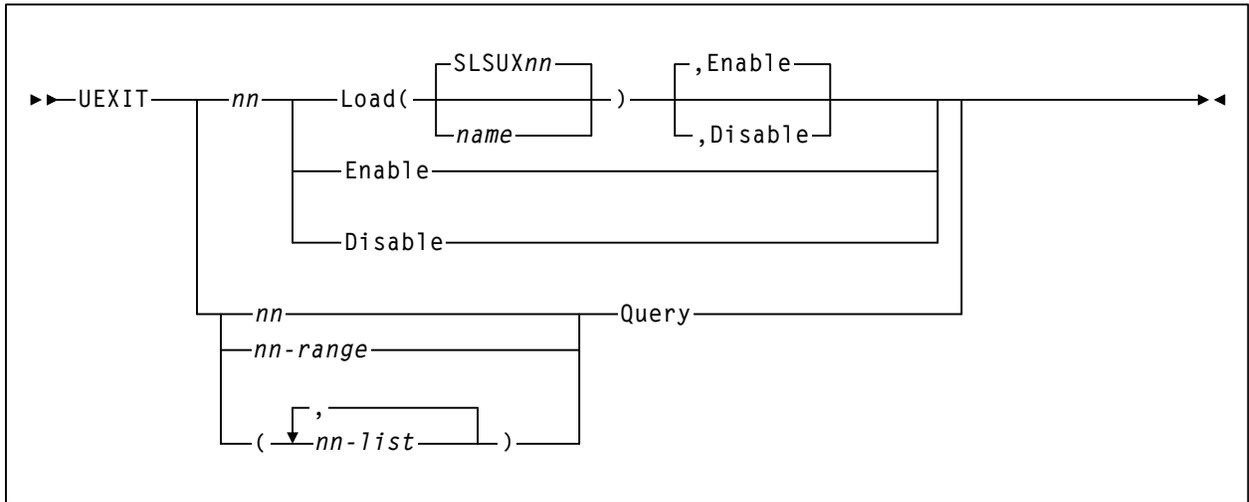
TRACELKP コマンド



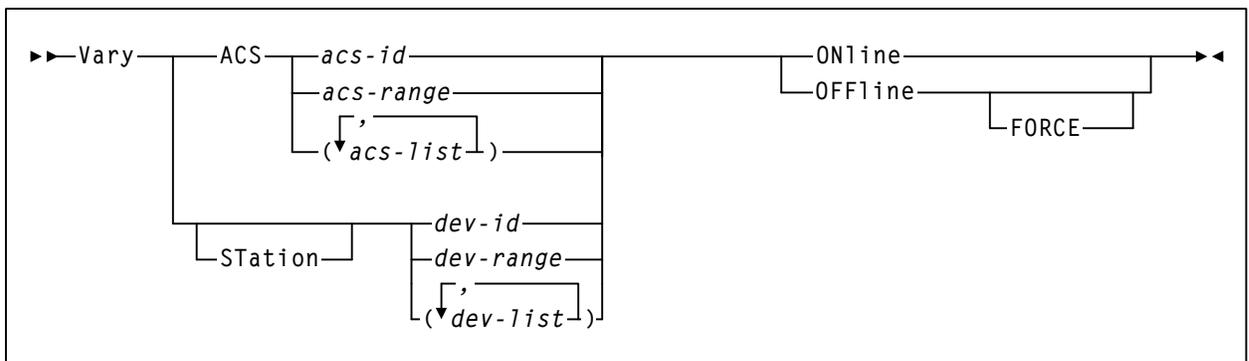
UNSCRatch コマンド



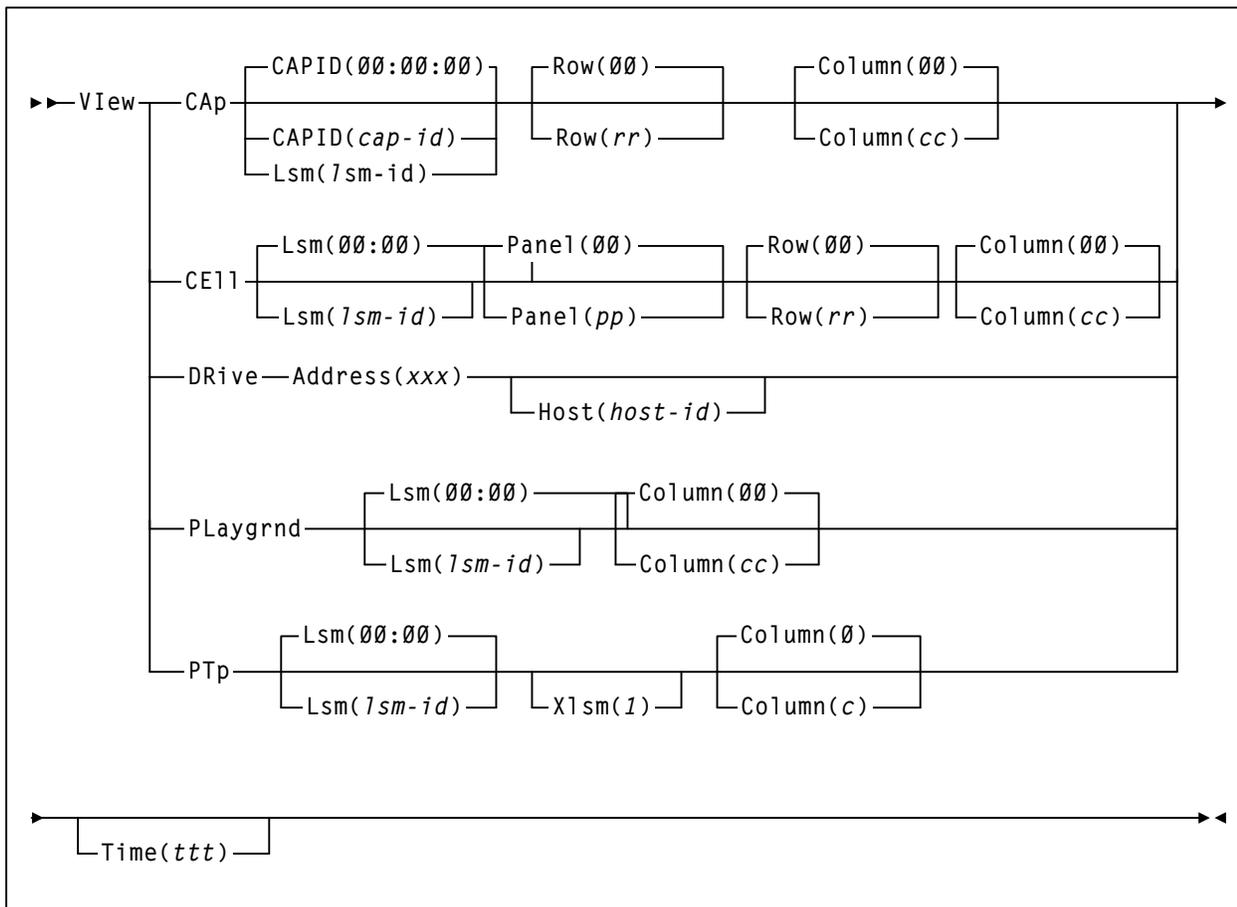
ユーザー出口 (UEXIT) コマンドおよび制御文



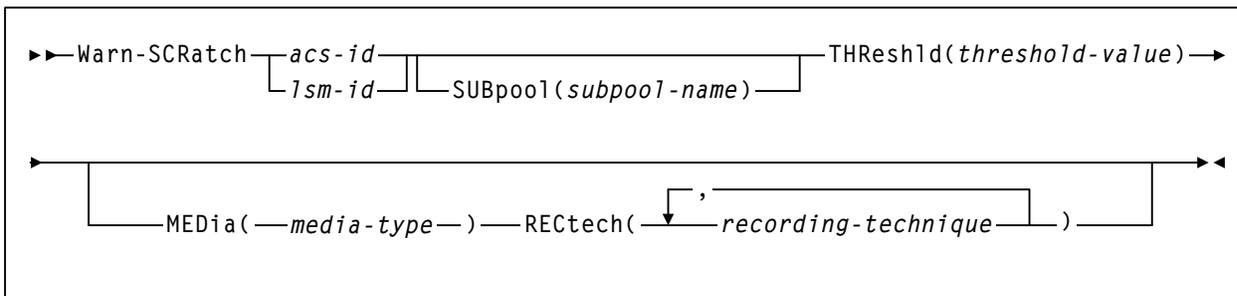
Vary Station コマンド



View コマンド



Warn コマンド



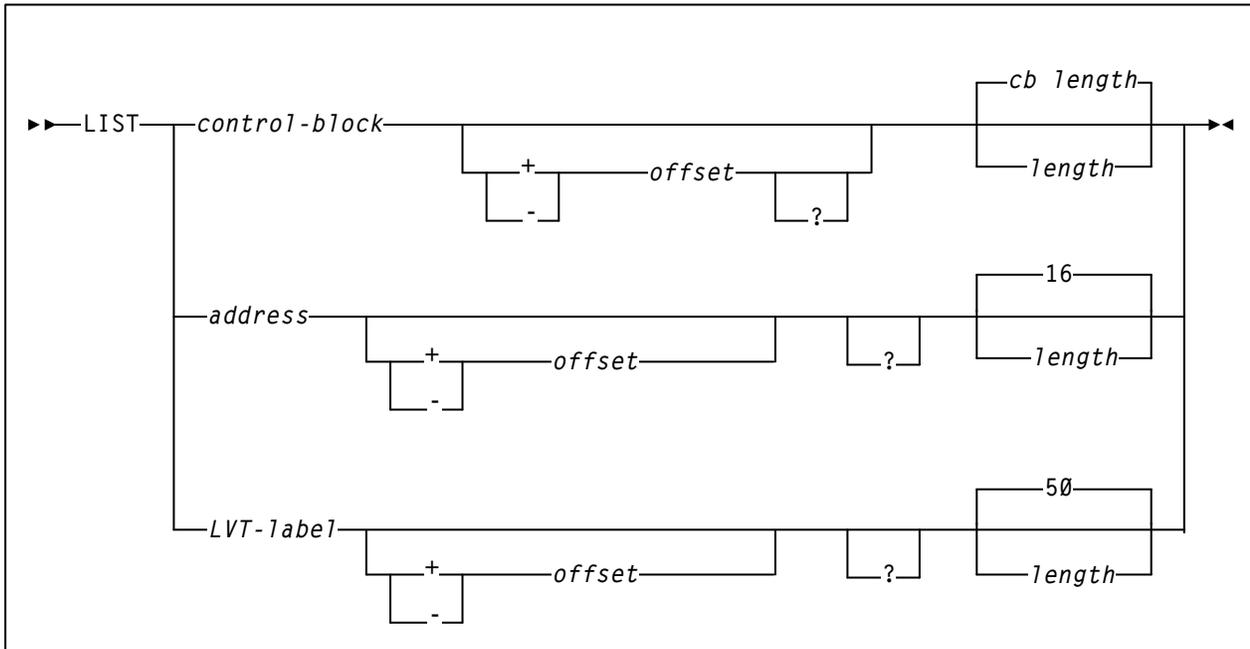
メディアタイプ	記録方式
LONGItud 標準	LONGItud、18track、36track、36Atrack、 36Btrack、36Ctrack
ECART	
ZCART	
DD3、DD3A、DD3B、DD3C	HELical、DD3
STK1、STK1R	STK1R、STK1R34、STK1R35、STK1RA、 STK1RA34、STK1RA35、STK1RB、 STK1RB34、STK1RB35、STK1RAB、 STK1RAB4、STK1RAB5、STK1RC、 STK1RC34、STK1RC35、STK1RD、 STK1RDE、STK1RDN、STK1RD34、 STK1RD35、STK1RDE4、STK1RDE5
STK2、STK2P	STK2P、STK2P34、STK2P35、STK2PA、 STK2PA34、STK2PA35、STK2PB、 STK2PB34、STK2PB35
LTO-10G、LTO-35G、LTO-50G、 LTO-100G、LTO-200G、LTO-400G、 LTO-400W、LTO-800G、LTO-800W、 LTO-1.5T、LTO-1.5W	*
SDLT、SDLT-2、SDLT-S1、 SDLT-S2、SDLT-S3、SDLT-S4、 SDLT-4	*
T10000T1、T10000TS、T10000T2、 T10000TT	T10K、T10KN、T10KE、T10KA、T10KAN、 T1A34、T1A35、T10KAE、T1AE34、 T1AE35、T10KB、T10KBN、T1B34、T1B35、 T10KBE、T1BE34、T1BE35、T10KC、 T10KCE、T10KCN、T1C34、T1C35、 T1CE34、T1CE35

* 対応する記録方式がありません。

HSC 診断コマンドの構文

この項には、診断コマンドの構文が記載されています。コマンドの詳細については、『HSC システムプログラマーズガイド』および『HSC オペレータガイド』を参照してください。

Llst コマンド



TRace コマンド

